

大原社会問題研究所編

日本労働年鑑

第4集／1923年版

(覆刻版)

法政大学出版社

(本覆刻は写真製版による。原本は菊判であるがA 5判に縮小した。)

日本勞働年鑑

(年貳拾正大)

大原社會問題研究所

緒言 — 大正十一年大觀

大正十一年は日本の社會をして未だ曾て經驗しなかつた新しい事實に面接せしめ、日本に於ける社會問題に新しい形貌を附與せしめた。

一昨年四月の恐慌の後を享けて、恐慌に次ぐに恐慌を以てし、さしものに誇らしげに振舞つた事業界の根柢を覆滅し終るかに思はれたものが、豫想に反して、時々小戻りの狀況をさへ示して、時に好景氣再來の福音(?)をさへ思はしめたものがあつた。さりながら假令其後、大恐慌の襲ふものなかりしとは云へ、大勢は之を如何ともすることを得ずして、事業界の各方面に極度の緊縮を示現し、遂には工場の閉鎖と大規模の解雇とを暴露するに至つた。殊にワシントン會議の結果による海軍々備縮少と、第四十五議會に於て衆議院の全院一致を以て可決された陸軍々備縮少に關する建議案の結果は、夫等と直接關係ある直轄工場は云はずもあれ、民間の各種工場、延いては一般事業界に影響なしには止まなかつたのである。

以上の事實は直接勞働界に反影して、其處に「失業」てふ儼然たる事實を生むに至つた。斯くて都市に於ける大正十一年の勞働問題は此の「失業」を中心として展開を見たのである。而して勞働爭議が、假令勞働的原因によつて發生したるものは其割合高からずして、能働的原因に

よるもの尙ほ可成り多くを占めゐるものありしとは云へ、此の能働的原因の内容を詮索し來る時は、工場委員制度の確立、團體交渉權の確認と云ふが如き攻勢的性質に屬するものは、殆んど絶無と稱し得べくして、其殆んど全部が賃銀引上、労働時間短縮の要求と相應じて、解雇手當制度の改正、否、解雇手當制度の設定を欲求するものであつた。以て失業に對する不安が、如何に都市労働者の階級を脅威しつゝあつたかを推知し得ると信ずる。然かも夫等の爭議は、二三の例外はあれ、何れも労働者側の慘敗に終を告げゐるを見る。各地に行はれたる労働祭に際して決議されたものゝ間々あつて、最も痛切に、しかも最も光つて居た「生存權の確立」てふ一標語は、以上の事實を背景として凄慘なるものであつた。

既に述べたる事業界の情勢に加ふるに、爲替相場の關係は對外貿易の上に日本をして甚しく不利なる状態に置いた。此の事實は日本の資本家階級を動かさずには居なかつた。斯くて曾ては消費の增高と物價の釣上とに努力して居た資本家階級をして、一朝にして消費節約物價低落の運動の急先鋒に豹變せしむるに至つたのである。

斯くの如くにして大正十一年の前半は労働者階級の對失業運動に過ぎ、其の後半は資本家階級の消費節約運動に終つたのである。

國內に於ける事業の緊縮と失業の不安とに加ふるに、海外移民の問題は依然として行き詰

りの状態にある。而已ならず鮮人の内地に移住するもの漸く多さを加へ、大正十一年の夏以降、大阪市の如きは毎月幾千の鮮人労働者を迎へつゝあつて、底止する所を見ざる情勢にある。此の現象は内地労働者に對すると同時に、移入労働者それ自身に對しても、近き將來に残される大きな問題を提供するものであらねばならぬ。而して大正十一年は既に此の方面にも二三の細漣を揚げてゐる。

以上の如き社會事實は社會思想の分野に影響なくて止み得べきものでない。已に其の萌芽は存しつゝも、尙ほ開展を見ずにあつた社會思想に於ける二つの大きな傾向―アナキズムとボルシェヴィズムとの―が、劃然と其の分化を遂ぐるに至つたことは、大正十一年に於て忘るべからざる出來事である。而して社會主義的運動でいよ／＼陰性に赴き、所謂不穩文書事件が全國各地に傳へられて、よし夫等凡べてが所謂主義者によつて起されしものに非ずして、一種の流行的表現たるものもあつたにせよ、然かも尙ほ斯種の事柄が流行の一つとして認めらるゝ其處に、考ふべき多くの事が横はりゐるを見道がす譯に行かぬのである。

社會思想の此の二つの傾向に相對應して、労働運動の領域にも、それと並行せる二箇の流を認めることが出來た。其の組合組織の原則に於て、集中合同論に立つものと、自由聯合論に據るものとが、漸く其の意識を明確にし、遂に最後の絶縁を宣明するに至つたのも、實に大正十

年であつた。一般に労働運動の根柢を流るゝ潮流は、已に前年の理想主義的境地を去つて、現實主義的領地に進んで來た。普通選挙の『理想』に政治運動を認めた時代は遠く去り、團體交渉権の『追求』に政治運動を認めなかつた時代も亦逝いて、無産階級の政治運動に新しい意味を發見する様になつたのも、亦實に大正十一年であつた。労働祭の標語に『勞農ロシアの承認』の一句があつたことは、斯かる意味に於て忘るべからざるものである。

事業界の不振は俸給生活者の範圍にも當然響かざるを得なかつた。斯くて從來は俸給生活者運動の中堅を形作つて居た觀のあつた會社員と教員とに退嬰と苟安とを以てしたものであるに反し、官公吏員の間には一種時代の動きを仄見するやうにせしめたことは留意すべき現象であつた。殊に軍縮の事實に遭逢した軍人階級——曾ては夢寐だもせざりし失職の事實に當面した軍人社會が、如何なる社會現象のモチーヴになるかは未知の問題であるが、兎に角、斯かる事實を生み出したものは實に大正十一年であつた。

然るに『失業』を中心とする都市の社會問題とは全く異つた相貌を示すものは農村に於けるそれであつた。小作問題は本年に入つて益々緊張の度を加へ、朝野の視聽を蒐めた觀がある。小作爭議の戰術が從來の不作同盟又は小作地返還より移つて、小作料不納に變じたことは、問題解決の緊急さを一層加へたものがある。政府は之に對する對策として、二百三十六年を期

して現存の小作地を全部自作化せんとする遠大なる自作農創定案を樹てたと傳へられ、農商務省の小作制度調査會は小作爭議調停法案を作つて、第四十六議會へ提出したが、衆議院の委員會に於て握り潰しの運命に遭遇した。地主の對策としては從來の慰撫的方策より漸く對抗的方策に赴くものあると同時に、各種の原因による農場放棄の企が傳へられた。斯かる間に日本農民組合が生れたのが實に大正十一年であつた。

之を要するに、大正十一年は社會問題の各方面に、全く新しき出發點を踏み始めた年であつたと云ひ得る。赤化防止團が生れ、國粹會が活動した。それと同時に過激社會運動取締法案が社會の是非の論の間に葬り去られて、勞農ロシアの承認てふことが、勞働者階級と共に、資本家階級にも、其の所因は全然異なるにもせよ、可成り眞面目に考へらるゝ様になつたことは、大正十一年を象徴するに最もふさわしき事柄ではあるまいか。本年鑑は此の新らしき出發點を踏み出した大正十一年に於ける日本の社會問題の各方面に於ける状態と經過と、之に對する施設及び對策に關する記録である。

最後に本年鑑を編纂するに方り、多くの資料と便宜とを與へられた公私の各團體並に各位に對して深甚の謝意を表すると同時に、尙ほ將來の年鑑の爲めに、より多くの助力と助言とを切望する次第である。

日本勞働年鑑

大正十二年三月

六

大原社會問題研究所

凡 例

一 本書に掲げた記事は、全國の主なる新聞雜誌、各勞働團體の報告、各官廳公私團體の調査報告に據つて、本所に於て取捨按排したるものと、本所が直接調査した所に據るものとから成る。

一 前年版に比して、編に於ては一つの増減を加へなかつた。然し各編内部の組織は全然面目を改めた。

一 前年版までの目次を廢して、本書の體系を示す「總目次」と、本書中に各問題の代表的實例として引用した特殊事件の項目を示す「特殊記事目次」と、本書掲ぐる所の統計を示す「所掲統計表目次」とを附した。

一 卷末に索引を附することにした。

労働年鑑目次

第一編 労働組合……………一頁

概説……………一

第一 既成組合の運動……………一

一 日本労働総同盟……………一

1 大 會……………二

2 地方聯合會及支部會……………四

3 組合設置運動……………五

4 労働運動……………五

5 關係せる爭議……………五

6 加盟又は脱退せる組合……………五

7 雜……………六

二 官業労働総同盟……………六

1 官業労働総同盟……………六

2 向上會(大阪本部—名古屋支部—小倉支部—吳支部)……………七

3 日本労働聯盟……………九

4 八幡同志會……………九

5 關東聯合會……………〇

三 日本海員組合……………〇

第二 新組合の成立……………〇

一 同盟會の組織……………〇

二 個々の新組合の成立……………三

第三 労働組合對策……………五

第二編 労働運動……………六

第一 共通運動……………六

1 労働祭……………六

2 對失業運動……………〇

3 政治運動殊に普選運動……………二

4 過激社會運動取締法案問題……………二

5 國際労働會議問題……………二

6 露國飢饉救濟運動……………三

7 對露非干涉運動……………三

第二 各團體の運動……………三

一 日本労働総同盟系の運動……………三

1 示威運動……………三

2 會 合……………三

3 演說會・講演會……………三

4 其 他……………三

二 労働組合同盟會の運動……………三

三 官業労働総同盟系の運動……………三

四 其他の組合の運動……………三

五 其他の運動……………二四

第三 當局の對策及態度……………二四

第三編 労働爭議……………二六

概 説……………二六

第一 爭議統計……………二七

第二 主要なる爭議……………二四

A 工場工業に於る爭議……………二四

- 一 染織工場(紡績工場—織布工場—染工場)……………二五
- 二 機械器具製造工場並に精鍊工場……………二六
- 三 化學工場……………二六
- 四 飲食物工場……………二六
- 五 雜工場(印刷工場—其他の雜工場)……………二七
- 六 特別工場(精鍊工場を除く)……………二七

B 家内工業及手工業に於る爭議……………二五

- 一 家内工業……………二五
- 二 手工業……………二五

C 鑛業に於る爭議……………二六

- 一 炭 山……………二六
- 二 金鑛山……………二六
- 三 石 山……………二六

D 交通業に於る爭議……………二六

- 一 陸上交通業……………二六
- 二 海上交通業……………二六
- 三 仲仕及人夫……………二六
- 四 人力車夫……………二六

E 官公業に於る爭議……………二六

- 一 官 業(官營工場—郵便局)……………二六
- 二 公 業……………二六

F 商業に於る爭議……………二六

G 雜 (土工—漁夫—其他)……………二六

第三 爭議に伴ふ裁判事件……………二六

第四編 労働者状態……………二七

第一 労働者の數。性及年齢等……………二七

- 一 工業労働者……………二七
- 二 鑛業労働者……………二七
- 三 交通労働者……………二七
- 四 林業労働者……………二七
- 五 漁業労働者……………二七

第二 労働時間……………二八

第三 労働賃銀……………二八

第四 労働災害……………二九

一 工場災害……………九一

二 鑛山災害……………九二

三 交通災害……………九三

第五 勞働者狀態改善策……………九三

政黨の對策……………九三

第五編 失業問題……………九五

概 說……………九五

第一 失業狀況……………九五

一 工業に於る失業狀況……………九六

二 鑛業に於る失業狀況……………九七

第二 對失業運動……………一〇四

一 軍備縮小による官業勞働者の對失業運

動……………一〇四

二 其他の勞働者の對失業運動……………一〇七

第三 失業對策及施設……………一〇八

一 既設の對失業施設及其成績……………一〇八

二 新らしき失業對策及對失業施設……………一一四

一 政府の失業對策……………一二四

二 公共團體の對策……………一二五

三 政黨の對策……………一二六

四 私人又は私團體の失業施設……………一二九

第六編 福利增進施設……………一三〇

概 說……………一三〇

第一 共濟組合……………一三〇

一 共濟組合狀況……………一三一

二 新設共濟組合……………一三四

第二 職工扶助給與……………一三六

第三 居室施設……………一四〇

第四 其他の福利增進施設……………一四二

一 保健施設……………一四二

二 慰安施設……………一四三

第七編 社會保險及職工貯蓄……………一四三

概 說……………一四三

第一 社會保險……………一四三

一 社會保險の狀況……………一四三

二 社會保險施設……………一四六

第二 職工貯蓄……………一四六

- 一 工場貯蓄状況一斑……………一四九
- 二 郵便貯金……………一五〇
- 三 貯蓄銀行貯蓄預金状況……………一五二
- 四 各府縣に於る職工貯蓄状況……………一五三

第八編 労働者教育問題……………一五六

概 説……………一五六

- 第一 労働者教育程度……………一五六
- 第二 労働者教育機關の状況……………一五九
- 第三 労働者教育新施設及對策……………一六二

- 一 政府の對策及施設……………一六三
- 二 各府縣等の施設……………一六三
- 三 公共團體の施設……………一六三
- 四 私人又は私團體の施設……………一六三
 - (一) 私團體……………一六三
 - (二) 私人・私設會社……………一六三

第九編 社會主義運動……………一六六

概 説……………一六六

- 第一 宣傳運動……………一六六

- 一 同盟結社……………一六六
- 二 宣傳……………一六六
- 三 主義者の會合……………一六六
- 四 機關紙及機關雜誌……………一六六

第二 裁判事件……………一六八

- 一 不穩文書に關する事件……………一六九
- 二 筆禍事件……………一七〇

雜……………一七一

第十編 勞資協調運動……………一七二

概 説……………一七二

- 第一 勞資協調團體と其運動……………一七二
 - 一 既成團體の運動……………一七二
 - 二 新團體の成立……………一七四
- 第二 工場委員制度……………一七六
 - 一 既成組織の運用と展開……………一七六
 - 二 新組織の成立……………一七六

第十一編 農村問題……………一七九

概 說	一七九
第一 農業概況	一八〇
第二 小作問題	一八六
一 小作及小作人狀態	一八八
二 小作爭議	一九七
1 小作爭議統計(內務省調査)	一九九
2 小作爭議の原因及小作人の要求條件	一九九
3 大正十一年度小作返還地面積	二〇〇
4 大正十一年中主要小作爭議統計(當研究所調査)	二〇一
5 小作爭議の經過及結果	二〇四
三 小作組合	二一一
1 組合統計	二一一
2 組合の成立	二二三
四 小作對策及施設	二二八
1 政府の對策	二二八
2 各府縣及市町村團體の對策及施設	二三四
3 政黨の對策	二三六
4 公私團體の對策	二三九
a 農 會	二三九
b 協調會	二四〇
c 産業組合	二四〇
d 其他の團體	二四〇
e 特殊機關	二四〇
5 地主の對策	二四三
a 慰撫的對策	二四三

目 次

第三 雜	二四五
b 協調的對策	二四五
c 對抗的對策	二四五
d 土地放棄	二四五
e 自作農化策	二四五
f 新小作制度の創始	二四五

第十二編 女子職業問題

概 說

第一 女子職業一般	二二六
一 女子職業一般狀況	二二六
二 女子職業施設	二二九
第二 女工問題	二三九
一 女工狀態	二三九
二 爭 議	二四三
三 施設及對策	二四三
第三 女教員問題	二四四
一 女教員狀態	二四四
二 女教員連動	二四五
三 女教員問題對策	二四八
第四 藝娼妓並に私娼問題	二四八

五

- 一 藝娼妓並に私娼の状態……………二四九
- 二 待遇條件の變化……………二五三
- 三 藝娼妓運動……………二五五
- 四 對策及施設……………二五六
 - (一) 府縣及公團體の對策……………二五六
 - (二) 私人及私團體の對策……………二五七
- 五 公娼廢止運動……………二五八
- 第五 其他の職業婦人問題……………二五九
 - 一 其他の女子職業者狀態……………二五九
 - (一) 女官公吏……………二五九
 - (二) 交通業關係婦人(女車掌、電話交換手等)……………二五九
 - (三) 家 婢……………二六〇
 - 二 其他の女子職業者運動……………二六〇

第十二編 少年労働問題……………二六三

- 概 説……………二六三
- 少年労働者の狀態……………二六三
 - 一 少年労働者の數……………二六三
 - A 工場に於る少年労働者の數……………二六三
 - B 鑛山に於る少年労働者の數……………二六三
 - C 一年間休業者年齢調……………二六八
 - 二 少年労働者の賃銀……………二六八

第十四編 俸給生活者問題……………二七五

- 概 説……………二七五
 - 第一 俸給生活者一般……………二七五
 - 一 俸給生活者狀態……………二七六
 - 二 俸給生活者運動……………二七六
 - 第二 會社員問題……………二七六
 - 一 會社員狀態……………二七六
 - 1 待遇狀態……………二七六
 - 2 失職狀態……………二八二
 - 二 待遇改善運動……………二八三
 - 第三 教員問題……………二八四
 - 一 教員狀態……………二八四
 - 1 教員の數……………二八四
 - 2 俸給狀況……………二八六
- 附 記……………二七三
 - 1 國際労働條約案と少年労働……………二七三
 - 2 大阪市立少年職業相談所成績……………二七三
- 三 少年労働者と教育……………二六九
- 四 少年労働者と災害……………二七一
 - 1 工場災害……………二七一
 - 2 鑛山災害……………二七二

3	待遇状態の變化	二九〇
4	教員志願者狀況	二九〇
5	失職狀況	二九一
二	對失職運動	二九一
三	待遇改善運動	二九二
イ	小學校教員	二九二
ロ	中等學校教員	二九三
四	組合運動	二九四
五	施設及對策	二九七
第四	官公吏問題	三〇〇
一	官公吏狀態	三〇〇
1	官公吏の數	三〇〇
2	俸給狀態	三〇一
3	年齢狀態	三〇一
4	警察官吏家族の内職狀態	三〇一
5	待遇状態の變化	三〇二
6	失職狀況	三〇二
二	待遇改善運動	三〇四
三	共濟組合	三〇四
四	施設及對策	三〇五
第十五編	生活費問題	三三二
概説		三三二

第一	生活難の事實	三三二
第二	生計狀態	三三六
第三	生活費低減運動	三三七
一	政府の物價調節策	三三七
二	各府縣及市公共團體の物價調節策	三三三
三	私人又は私團體の物價引下運動	三三六
1	全國商業會議所の生活費低減運動	三三七
2	物價引下消費節約諸運動	三三九
3	東京實業組合聯合會の物價調節意見	三三一
第四	物價低減防止運動	三三一

第十六編 産業組合

概説	三三三
甲 産業組合一般	三三三
第一 産業組合狀況	三三三
第二 産業組合運動	三三九
第三 産業組合對策	三四四
國家及公團體の對策	三四四
乙 消費組合	三四五

第一 消費組合狀況(當研究所第三回調査結果)

果).....三四五

第二 消費組合運動.....三五四

第十七編 住宅問題.....三五六

概 說.....三五六

第一 住宅難の事實.....三五六

第二 住宅爭議(當研究所調査結果).....三五六

第三 借家人運動.....三六〇

第四 住宅問題對策及施設.....三六二

第十八編 人口問題.....三六五

第一 人口靜態(大正十一年十月一日推計人口).....三六五

イ 人口の道府縣別.....三六五

ロ 人口十萬以上の市區人口.....三六五

ハ 人口の密度.....三六五

ニ 人口の男女別.....三六五

第二 人口動態(大正十年中).....三六六

1 婚姻.....三六六

第十九編 勞働移民問題.....三七四

概 說.....三七四

甲 海外移民問題.....三七四

第一 海外移民狀態.....三七四

1 海外移民數.....三七五

2 海外移民の職業.....三七六

3 移民の故郷送金.....三七七

第二 北米合衆國及加奈陀.....三七八

一 北米合衆國及加奈陀移民の狀態.....三七八

1 移民の數.....三七八

2 在留民の職業.....三七九

2	離婚三六六
3	出生三六七
4	死産三六八
5	死亡三六八
6	自然増加三六九
7	棄兒三六九
8	失踪三六九

二	北米合衆國及加奈陀に於る移民關係事件	三六一
第三	中米及南米	三八八
一	中米及南米移民の状態	三八八
1	在留民の數	三九八
2	在留民の職業	三九九
3	伯刺西爾移民の狀況	四〇〇
二	中米及南米に於る移民關係事件	三九二
第四	濠洲及附近諸島	三九三
一	濠洲及附近諸島移民の状態	三九三
1	在留民の數	三九三
2	在留民の職業	三九三
二	濠洲に於る移民關係事件	三九四
第五	西比利亞	三九四
一	西比利亞移民の状態	三九四
1	在留民の數	三九四
2	在留本邦内地人の職業	三九五
3	在留民事情	三九五
三	西比利亞に於る移民關係事件	三九六
第六	海外移民對策	三九六
乙	國內移民問題	三九七
一	國內移民の狀態	三九七

1	移民の數	三九七
2	國內移民事情	三九八
二	內移民對策	三九九
丙	移入民問題	四〇〇
一	移入民狀態	四〇〇
一	移入民の數及分布狀態	四〇〇
二	移入鮮人の狀態	四〇〇
二	移入民關係事件	四〇三
三	移入民對策	四〇四

第二十編 國際勞動問題

概 說	四〇五
第一 國際勞動事務局の組織(附勞動審理委員會)	四〇五
第二 勞働理事會(附海軍聯合委員會)	四〇七
一 勞働理事會の組織	四〇七
二 一九二二年に於る勞働理事會の經過	四〇七
第十一回勞働理事會	四〇七
第十二回勞働理事會	四〇九
第十三回勞働理事會	四一一

- 第十四回労働理事會……………四二
- 第十五回労働理事會……………四三
- 労働理事會の改選……………四三
- 第一回労働理事會……………四三
- 三 海軍聯合委員會……………四三
- 第三・常設國際司法裁判所への諮問事項……………四四
- 一 國際労働機關の權限問題……………四四
- 二 平和條約解釋問題……………四六
- 第四 第四回國際労働總會……………四七
- 一 會議事項及會議期日……………四七
- 二 總會に關する國內諸問題……………四八
- 1 代表者選定……………四八
- 2 労働代表反對運動……………四九
- イ 向上會の抗議……………四九
- ロ 棚橋小虎氏の抗議……………四九
- 3 國際労働總會否認運動……………四九
- 三 總會の經過……………四九
- 概 觀……………四九
- 1 労働理事會組織改正問題……………四九
- 2 労働總會開會度數問題……………五〇
- 3 移民統計問題……………五〇
- 4 條約案改正方法問題……………五〇
- 5 失業問題……………五一
- 6 資格審査問題……………五一
- 四 總會の結果……………五一

- 1 移民に關する情報に就ての勸告……………五〇
- 2 理事會組織に關する條約文改正案の決議……………五〇
- 3 労働總會開會度數に關する條約改正案の決議……………五一
- 4 失業の調査に關する決議……………五一
- 第五 條約案の批准及び各國立法狀況……………五一
- 一 條約案の批准……………五一
- 1 國際労働事務局長の條約案批准現況に就ての演說……………五一
- 2 労働條約批准一覽表……………五一
- 3 我國に於る労働條約案の運命……………五一
- 二 各國立法狀況……………五一
- 甲 第一回總會の分……………五一
- 乙 第二回總會の分……………五一
- 丙 第三回總會の分……………五一

第二十一編 労働立法……………四九

- 概 説……………四九
- 第一 法律……………四九
- 1 船員職業紹介法……………四九
- 2 健康保險法……………四九
- 3 借地借家調停法……………四九
- 4 簡易生命保險法改正法……………四九
- 第二 法案……………四九

第二十二編 政治一斑

概 説

1	普選問題	四四八
2	軍備縮少問題	四四九
3	陪審法案	四四九
4	過激社會運動取締法案	四四九
5	昇格案	四四九
6	革新俱樂部の誕生	四五〇
7	大連會議及び長春會議(附シベリヤ撤兵)	四五〇

1	過激社會運動取締法案	四四二
2	國民黨の勞働組合法案	四四六
3	國民黨の農業組合法案	四四六
4	國民黨の工場法中改正法律案	四四六
5	憲政會の失業保險法案	四四六
6	憲政會の勞働關係諸法案	四四六
7	治安警察法改正法案	四四七
8	憲政會の借家法改正法案	四四七
9	小作調停法案	四四七

第二十三編 財政一斑

概 説

第一	財政事情	四五二
1	十一年度歲計豫算	四五二
2	府縣稅戶數割規則施行細則及改正	四五四
3	稅制整理案の内容	四五五
第二	財政に關する主要運動	四六一
1	營業稅廢止運動	四六一
2	新戶數割規則改廢運動	四六一
3	義務教育費國庫負擔運動	四六一

第二十四編 經濟一斑

概 説

一	物價	四六四
二	外國貿易	四六五
三	企業	四六七
四	金融	四六九
附記	日本經濟聯盟會の成立	四七二

第二十五編 雑……………四七五

一 社会団体の成立……………四七五

1 全国水平社の創立……………四七五

2 赤化防止團の創立……………四七五

3 國粹會の活躍……………四七六

4 大和民勞會支部の發會……………四七六

二 社会問題機關の新設及組織變更……………四七六

1 社会局の新設……………四七六

2 横濱社会問題研究所の設立……………四七七

3 大原社会問題研究所の法人設定……………四七七

三 雑……………四七七

1 ロシア飢饉救濟問題……………四七七

2 サンガー夫人の來朝……………四七七

附録 一……………四七六

大正十一年中に制定されたる 労働法規……………四七六

船員職業紹介法……………四七六

船員職業紹介法施行規則……………四七六

船員職業紹介法第三條に依る補助金支給の……………四七六

件……………四八〇

健康保健法……………四八一

借地借家調停法……………四八六

借地借家調停法の施行……………四八七

附録 二……………四八八

文 献……………四八八

A 雜誌掲載社会問題關係記事……………四八八

B 十一年度出版社会問題關係主要著書……………五〇三

* * * * *

索引

日本労働年鑑目次終

特殊記事目次

第一編 労働組合

○既成組合の運動

日本労働總同盟	一頁
大會	二
關西労働同盟會大會	二
關東労働同盟會大會	二
労働總同盟第十一年大會	三
地方聯合會及支部會	四
組合設置運動	五
筑豊炭坑地方に於る運動	五
朝鮮に於る運動	五
労働運動	五
關係せる爭議	五
加盟又は脱退せる組合	五
官業労働總同盟	六
第四回官業労働者大會開催に關する	六
事件と官業労働者臨時大會の開催	六
向上會	七
大阪本部	七
名古屋支部	九
小倉支部	九
吳支部	九
日本労働聯盟	九
八幡同志會	九
關東聯合會	一〇

日本海員組合

○新組合の成立

同盟會の組織	一〇
大阪に於る労働組合同盟會の組織	一〇
労働組合總聯合創立計畫と大會の經過	一
個々の新組合の成立	一三
理髮助手徒弟大會と東洋理髮文化協會の成立	一三
勞正會	一四
和歌山機械工組合	一四
談笑俱樂部組織	一四
大阪労働組合の成立	一五
鮮人労働者同盟會の創立	一五

○労働組合對策

國民黨提出『労働組合法案』

第二編 労働運動

○共通運動

労働祭	一八
東京に於る労働祭	一八
大阪に於る労働祭	一九
神戸に於る労働祭	一九
足尾に於る労働祭	二〇
岡山に於る労働祭	二〇

横濱に於る労働祭

其他の地方に於る労働祭

對失業運動

政治運動、殊に普選運動

過激社會運動取締法案問題

國際労働會議問題

露國飢饉救濟運動

對露非干涉運動

○各國體の運動

日本労働總同盟系の運動

労働組合同盟會系の運動

官業労働總同盟系の運動

其他の組合の運動

其他の運動

八幡製鐵所罷業二週年記念演說會

○當局の對策及態度

大阪に於る労働專務警官の設置

福岡警察部長の對労働運動態度

第三編 労働爭議

○主要爭議

大阪毛織會社爭議	二五
小野造船所爭議	二七
横濱船渠爭議	二八
石川島造船所爭議	二九

大阪鐵工所争議……………三三
 大阪住友伸銅所争議……………三三
 京都澤田合金争議……………三三
 大島製鋼所争議……………三三
 東洋燐寸争議……………三三
 日本染料争議……………三三
 日本エナメル争議……………三三
 野田醬油争議……………三三
 京郷日出新聞社争議……………三三
 大電争議……………三三
 灘製樽工の争議……………三三
 尾小屋鑛山の罷業……………三三
 阪神電車罷業……………三三
 隅田川驛人夫の罷業……………三三
 大阪砲兵工廠提理彈劾事件……………三三

○争議に伴ふ裁判事件

愛知時計電氣會社職工の判決……………三三
 堀江ラバー工作所争議職工の判決……………三三
 大阪鐵工場争議職工の起訴……………三三
 日本電線尼崎工場争議職工の起訴……………三三
 大阪機械工作所争議職工の起訴……………三三
 大島製鋼所職工の起訴……………三三
 野田醬油争議職工の豫審終結……………三三
 澤田合金争議に際しての國粹會員暴行事件豫審終結……………三三

○雜

朝日橋署檢束報告書捏造事件……………三三
 労働争議に關する懇談……………三三

第四編 労働者状態

○労働者状態改善策

國民黨の「工場法中改正法律案」……………三三

第五編 失業問題

○失業状況

東京麻絲紡績會社沼津工場の解雇……………三三
 足利紡績會社足利工場の解雇……………三三
 大阪關西紡績會社廣島工場の閉鎖……………三三
 大阪大福紡績會社の閉鎖……………三三
 三菱造船所の職工淘汰……………三三
 播磨造船所の解雇……………三三
 小野造船所の解雇……………三三
 淺野造船所の閉鎖……………三三
 東京砲兵工廠の職工轉職……………三三
 海軍工廠及造船工場の解雇……………三三
 横濱渡邊鐵工所の閉鎖……………三三
 大阪鐵工所の解雇……………三三
 帝國紡績機械製造會社大津工場の閉鎖……………三三
 大阪久保田鐵工所の解雇……………三三
 朝日建築鑄物工場の解雇……………三三
 東洋製紙會社の解雇……………三三
 横濱魚油會社の閉鎖……………三三
 極東硝子會社の解雇……………三三
 横濱亞鉛渡金會社の解雇……………三三
 東京亞鉛鍍金會社の解雇……………三三
 尼崎中山亞鉛工業所の解雇……………三三
 高木氏經營製材工場の解雇……………三三
 四阪島精鍊所の解雇……………三三

○對失業運動

八幡製鐵所の自然淘汰……………三三
 伏見伸銅所の解雇……………三三
 室蘭日本製鋼所の解雇……………三三
 藤田鑛業會社鑄銅所の解雇……………三三
 神戸製鋼所の解雇……………三三
 電氣製鋼所福島工場の解雇……………三三
 住友伸銅所の解雇……………三三
 日本製鋼所廣島工場の解雇……………三三
 日東製鋼會社の解散……………三三
 尾小屋鑛山精鍊工の解雇……………三三
 大阪電燈會社の解雇……………三三
 諏訪電氣會社の解雇……………三三
 東京電氣會社の解雇……………三三
 中島炭坑の解雇……………三三
 岩瀬炭坑の解雇……………三三
 日本郵船會社の解雇……………三三
 阪神間船員の失業……………三三
 京成電車會社の工夫解雇……………三三
 阪神電車の従業員解雇……………三三

官業労働總同盟大會……………三三
 吳工廠職工有志大會……………三三
 全國労働組合大會……………三三
 八幡製鐵所労働團體の示威運動……………三三
 第三回官業労働者大會……………三三
 官業労働者の全國的示威……………三三
 官業労働者の對失業陳情……………三三
 日本労働總同盟の關東労働同盟會の組織……………三三

○横濱造船工組合主催軍縮失業対策職工大會

大會……………一〇七

關西失業者大會……………一〇七

○失業対策及施設

職業紹介所の數及成績……………一〇八

全國公益職業紹介所事務打合會……………一一三

各地職業紹介所協議會……………一一四

横濱市の職業紹介所宣傳ビラ撒布……………一一四

社會事業事務打合會の失業対策……………一一四

内務省の失業対策打合會……………一一五

水野内相の失業救済に關する通牒……………一一五

東京府社會事業協會の建議……………一一六

憲政會の對軍縮失業決議……………一一六

衆議院各派の對軍縮失業建議案……………一一六

憲政會の失業保險法案提出……………一一六

京都西陣織物同業組合の失業救済案……………一一九

鐘ヶ淵紡績會社の失業救済基金設定……………一一九

吳失業保護協議會の設立……………一二九

第六編 福利増進施設

○共済組合

大阪市電氣鐵道部の共済組合設立……………一二四

製鐵所現業員共済組合の擴張……………一二六

○職工扶助給與

大阪に於る職工扶助給與調査……………一二六

大阪府下大工場に於る解雇者保護規定……………一二二

栃木縣に於る扶助金額及歸郷旅費……………一二二

大日本紡績株式會社職工扶助規則……………一二三

特殊記事目次

鐘淵紡績株式會社職工扶助規則……………一三三

富士瓦斯紡績株式會社職工扶助規則……………一三六

富士瓦斯紡績株式會社職工救済規則……………一三七

日本製鋼會社室蘭工業所職工扶助規則……………一三七

○居室施設

大阪市電鐵部の公舎新設……………一四二

大阪逓信局通信現業員の公舎新築……………一四二

大阪市の市吏員寄宿舎新築……………一四三

○保健施設

南滿鐵道會社の温泉療養所……………一四三

大阪逓信局の診療所設置……………一四三

熊本逓信局の診療所開設……………一四三

第七編 社會保險及職工貯蓄

○社會保險

簡易生命保險事業概況……………一四四

簡易生命保險積立金運用狀況……………一四七

建康保險實施準備……………一四七

簡易生命保險法の改正……………一四七

憲政會の疾病保險法案提出……………一四七

○職工貯蓄

工場貯蓄狀況一斑……………一四八

郵便貯金概況……………一五〇

貯蓄銀行貯蓄預金狀況……………一五三

各府縣に於る職工貯蓄狀況……………一五三

第八編 勞働者教育問題

○勞働者教育程度……………一五八

○勞働者教育機關

福岡市立實業補習學校生徒狀況調査……………一六〇

協調會藏前工業專修學校生徒狀況……………一六〇

大阪市教育部の商工徒弟補習教育短期講習會成績……………一六〇

中央勞働學院最初の卒業式……………一六一

日本勞働學校最初の卒業式……………一六一

○勞働者教育新施設及對策

文部省の事業……………一六三

航空第三大隊に於ける職工教育の開始……………一六三

佐世保海軍工廠に於ける教習所設置……………一六三

横濱市社會課の勞働講習會……………一六三

勞學院夜間中學部開校……………一六三

大阪勞働學校開校……………一六四

協調會大阪支所の勞働學院開校……………一六四

東洋紡績株式會社四貫島工場の職工教育所新設……………一六五

第九編 社會主義運動

○宣傳運動

八幡製鐵所罷工記念大演說會……………一六七

東京に於る荒畑寒村氏の出獄歡迎會……………一六八

『勞働運動』の復活と『前衛』の創刊……………一六八

○裁判事件

曉民共產黨事件……………一六九

全國軍隊への不穩文書配布事件……………一七〇

吉田只次氏に係る過激文書撒布事件……………一七〇

雜誌『社會主義』の朝憲紊亂事件……………一七一

第十編 勞資協調會運動

○勞資協調團體

財團法人協調會……………一七三
 尼崎工場係員研究會……………一七三
 兵庫縣工業懇談會……………一七三
 西陣勞資調查會……………一七五
 山梨縣工場懇話會……………一七五
 奈良工業協會の成立……………一七五
 大分縣工業協會の成立……………一七六

○工場委員制度

住友諸工場の工場協議會……………一七六
 ダンロップ工場委員の辭任……………一七七
 吳海軍工廠職工協議會……………一七七
 國有鐵道現業委員會……………一七七
 大阪市電氣鐵道運輸委員會……………一七六

第十一編 農村問題

○農業概況

大正十年末農事現勢……………一八三
 大正十年末朝鮮農事現勢……………一八四
 各府縣農事狀況……………一八五
 大阪府下の農村狀態……………一八五
 兵庫縣下の農家狀態……………一八五
 福岡縣下耕地面積減少狀態……………一八五
 大正十一年麥收穫高……………一八六
 大正十一年米收穫豫想高……………一八六

○小作問題

小作及小作人狀態……………一八八

全國小作及小作人狀態……………一八八
 岐阜縣下の自作及小作狀態……………一九〇
 小作料狀態……………一九〇
 全國小作料……………一九〇
 內國地主小作人收益歩合……………一九一
 各府縣各地方の小作料……………一九一
 農家經濟狀態……………一九三
 小作爭議……………一九七
 兵庫縣朝來郡粟賀村の小作爭議解決……………二〇四
 三重縣鈴鹿郡關町の小作爭議……………二〇五
 奈良縣宇智郡野原村の小作一揆……………二〇五
 香川縣木田郡西植田村の小作爭議……………二〇五
 新潟縣長岡市川崎町の小作爭議……………二〇五
 兵庫縣明石郡神出村の小作爭議……………二〇五
 大阪府三島村大字太田の小作爭議……………二〇六
 岡山縣兒島郡藤田村開墾地大曲農場の小作爭議……………二〇六
 大阪府北河內郡津田村の小作爭議……………二〇七
 兵庫縣印南郡伊保村字中島の小作爭議……………二〇七
 長野縣埴科郡戸倉村の小作料爭議……………二〇七
 東京府南多摩郡小宮村の小作料爭議……………二〇八
 兵庫縣印南郡阿彌陀村の小作料爭議……………二〇八
 山梨縣西山梨郡住吉村の小作料爭議……………二〇八
 北海道河西支廳神樂村御料地に於る小作制度爭議……………二〇九

福岡縣嘉穂郡内野村の小作料爭議……………二一〇
 大阪府北河內郡の小作料爭議……………二一〇
 小作組合……………二一一
 日本農民總同盟の成立及其の運動……………二一二
 日本農民組合の成立……………二二四
 小作對策及施設……………二二八
 農商務省小作制度調查會……………二二八
 小作爭議調停法案……………二二九
 小作保險法案……………二二九
 小作保險特別會計法案……………二二九
 自作農創定事業案……………二三三
 農會法案の可決……………二三三
 農商務省小作慣行調査……………二三三
 逓信省の自作農創設資金貸付……………二三三
 農業倉庫資金への貸付附、農業倉庫現況……………二三三
 和歌山縣信用組合の自作農獎勵規程……………二三四
 岡山縣當局の小作對策研究……………二三五
 岐阜縣の自作農獎勵資金貸付實施……………二三五
 政友會の小作對策……………二三六
 憲政會の小作對策……………二三六
 國民黨の小作對策……………二三七
 農業組合法案……………二三七
 農會の小作對策……………三三九
 帝國農會……………三三九
 聯合農會……………三三九
 各府縣郡市町村農會……………三三九
 協調會……………三三九
 產業組合……………三三九

其他の團體……………二二〇
 特殊機關……………二二〇
 道府縣農會役員協議會の小
 作爭議に關する決議……………二二〇
 茨城縣農會主催篤農家懇談會
 の小作爭議協案……………二二〇
 山梨縣農會主催縣下各郡市町
 村農會理事會の小作爭議對策……………二二一
 廣島縣福山市義倉財團の小作
 施設……………二二一
 和歌山縣農政俱樂部の農村問
 題對策決議……………二二二
 地主の對策……………二二三
 靜岡縣大地主松永安彦氏の土
 地解放……………二二四
 相馬子爵の所有地賣却……………二二四
 有馬武郎氏の農場放棄……………二二四
 九州大學伊藤助教授の新作
 制度實施說……………二二五

○藝娼妓私娼問題

豐橋市小學校女教員會の成立……………二二六
 第三回全國小學校女教員大會……………二二六
 女教員産前産後休養に關する文部省訓
 令……………二二六
 藝妓の養子縁組の無効に關する判例……………二二七
 藝妓自由廢業に關する宮城控訴院の判
 決……………二二七
 自由廢業藝妓に對する損害賠償請求無
 効の判決……………二二七
 各地に於る藝娼妓自由廢業の續出……………二二七
 濱松縣藝娼の同盟休業……………二二七
 兵庫縣下藝娼の同盟休業……………二二七
 愛知縣の娼妓待遇改善……………二二七
 奈良縣の藝妓取締法改正……………二二七
 鹿兒島遊廓に於る娼妓待遇改善新規
 約……………二二七
 神戸市湊川署の娼妓保護案……………二二七
 藝娼妓解放令發布滿五十年……………二二七
 東京毎日新聞社の藝娼妓自由廢業運動……………二二七
 丹波篠山遊廓の妊娠娼妓の保護……………二二八
 兵庫縣西宮遊廓の娼妓優遇法……………二二八
 代議士横山勝太郎氏の公娼廢止建議案……………二二八
 女學校長會議の公娼廢止提議……………二二八
 其他の職業婦人問題

○會社員問題

少年勞働者と教育……………二二九
 國際勞働條約と少年勞働……………二二九
 第十四編 俸給生活者問題

○女工問題

仙臺製絲女工の同盟罷工……………二二四

○女教員問題

日本女教員協會……………二二五

第十二編 女子職業問題

農民聯盟の成立……………二二五
 農政研究會主催全國農民大會……………二二五

其他の職業婦人問題

女給同盟の成立と其後の活動……………二二六
 看護婦同盟の成立……………二二六
 靜岡縣江尻局交換手の同盟休業……………二二六

第十三編 少年勞働問題

○少年勞働者の状態

小學教員其他の恩給額増加……………二二九
 教員志願者狀況……………二二九
 臨時教育行政調査會假決議に對する反
 對運動……………二二九
 關東聯合教育會々議に於る決議……………二二九

○教員問題

三菱直系諸會社の社員待遇狀態……………二二六
 明治生命保險會社の社員待遇狀態……………二二六
 日本郵船會社の社員待遇……………二二六
 室蘭製鋼所の社員待遇……………二二六
 神戸製鋼所の社員待遇……………二二六
 淺野造船所の社員待遇……………二二六
 日本製鋼所廣島工場の社員待遇……………二二六
 朝日新聞社の社員待遇……………二二六
 三菱電機株式會社の社員待遇……………二二六
 大丸吳服店大阪支店の社員待遇……………二二六
 三井田川炭坑所の社員待遇……………二二六
 東京麻絲紡績株式會社の社員待遇……………二二六
 橫濱船渠株式會社の社員待遇……………二二六
 大阪商船株式會社の社員待遇……………二二六
 朝鮮銀行の社員待遇……………二二六
 臺灣銀行の社員待遇……………二二六
 日本郵船内航部海員の増給運動……………二二六
 福岡銀行々員の同盟辭職……………二二六
 諏訪電氣株式會社技術員の地位向上運
 動……………二二六

岡山市に於る全国都市小學校々長會議……………二九二
 私立中等學校教員の待遇改善運動……………二九四
 第四回全国高等女學校長會議……………二九四
 全国中學校長協會第三回協議會……………二九四
 京都市中等學校教員團丁友會の待遇改
 善運動……………二九四
 教員互助會の設立及其の事業……………二九五

1 山梨縣教員互助會の設立……………二九五
 2 埼玉縣の教員共済聯合組合組織
 計畫……………二九六
 3 東京府教職員互助會の新計畫……………二九六
 4 群馬縣に於る小學教員互助會
 の狀況……………二九七

教育行政調査會の教育費整理案可決……………二九七
 東京市の小學教員俸給統一……………二九七
 炭坑地小學校教員優遇問題……………二九七

○官吏問題

警察官吏家族の内職狀況……………三〇一
 1 大阪府警察部警察官吏家族の内
 職問題……………三〇一
 2 茨城縣警察官吏家族内職の狀況……………三〇二
 内務省の淘汰人員數……………三〇三
 陸軍の將校淘汰……………三〇三
 海軍の將校淘汰……………三〇三
 大阪市の吏員淘汰と増給……………三〇三
 東京市の吏員淘汰……………三〇三
 東京市電氣局の吏員淘汰……………三〇四
 大正十年度警察共済組合事業大要……………三〇四
 海軍省の退職軍人職業紹介……………三〇六

陸海軍准士官及下士官の判任文官任用……………三〇六
 文武官退職手当及賜金……………三〇六
 恩給扶助料増額案……………三〇九
 郡制廢止に因る郡吏員退職救濟策……………三〇九
 各官廳の身中休暇廢止……………三一

第十五編 生活費問題

○生計調査

全国消費同盟會の調査計畫……………三七
 京都市區吏員の生計費調査……………三七

○生活費低減運動

六大都市商工課長事務打合會に於る物
 價引下協議……………三八
 物價調節に關する農商務省の七府縣產
 業部長會議……………三八
 政府の物價調節策第一次發表……………三九
 文部省の消費節約宣傳及び運動……………三三
 六大都市の物價表交換……………三四
 東京府の物價調査會……………三四
 大阪府物價調査會……………三五
 朝鮮總督府の物價調節策……………三六
 警視廳の湯錢値下運動……………三六
 全國商業會議所の生活費低減運動……………三七
 物價引下消費節約諸運動……………三九
 大日本物價調節會—全國消費同盟
 會—物價引下期成會—橫濱輸出協
 會—中産階級團—播磨造船所住宅
 會—主婦連—學生消費同盟—神戸川崎
 造船所—東京實業組合聯合會の物

價調節意見……………三一
 物價低落防止運動……………三一
 神戸市の湯屋業者の同罷業……………三一
 東京淺草理髮業組合の組合脱退者に對
 する違約金請求事件……………三一

第十六編 産業組合

○産業組合一般

第十八回全國産業組合大會……………三九
 産業組合中央會主催第二回婦人講習會……………三九
 産業組合に電氣事業經營の許可……………三九
 消費産業組合醬油醸造の許可……………三九

○消費組合

當研究所第三回全國消費組合調査結果……………三九
 大阪府下に於る消費組合の發達……………三九
 大阪府下に於る消費組合の現況……………三九
 關西消費組合協會の成立……………三九

第十七編 住宅問題

○借家人運動

北方借家人同盟……………三九
 大阪鶴橋町借家人互助會……………三九
 大阪千舟會……………三九
 帶廣町借家料協同同盟會……………三九
 東京日本橋の借家人組合……………三九
 熊本市の家賃値上反對同盟會……………三九
 尼崎借家人相談所……………三九
 岡山市借家人大會と借家人組合の成立……………三九
 名古屋借家人同盟會の家賃三割値下期

成の決議……………三三三
 静岡縣借家人同志會……………三三三
 京都日本借家人總同盟……………三三三
 東京借家人同盟……………三三三
 神戸家賃値下同盟會……………三三三
 借家人の不納同盟……………三三三
 千葉借家人大會……………三三三

○住宅問題對策
 憲政會の『借家法中改正法律案』……………三三三

第十八編 人口問題

○人口靜態
 人口の道府縣別……………三三五
 人口十萬以上の市區人口……………三三五
 人口の密度……………三三五
 人口の男女別……………三三五

○人口動態

婚姻……………三三六
 離婚……………三三六
 出生……………三三七
 死産……………三三八
 死亡……………三三八
 自然増加……………三三九
 棄兒……………三三九
 失踪……………三三九

第十九編 勞働移民問題

○海外移民問題
 北米合衆國及加奈陀

加州に於る邦人退去強要事件……………三三三
 加州日本人學童の教材に對する州政
 府の干渉……………三三三
 加州議會議員選舉の切迫と排日論の
 擡頭……………三三三
 太平洋沿岸諸州と排日立法……………三三三
 邦人の市民權行使訴訟……………三三三
 加州タローソク事件判決……………三三三
 加州土地法に對する試訴の勝利……………三三三
 布哇の日本婦人入島制限新策……………三三三
 加州に於る農業會社株と邦人……………三三三
 米國西部農業大會の邦人排斥決議……………三三三
 米國の鐵道罷業と日本勞働者の態度……………三三三
 米國出生の日本人兒童に對する桑港
 駐在日本總領事の聲明……………三三三
 米國の新移民法案……………三三三
 加州勞働青年會の日本人加入否決……………三三三
 在米日本人歸化權訴訟の判決……………三三三
 加奈陀に於る東洋人農夫排斥……………三三三
 加奈陀製紙工場の日本人勞働者放逐
 策……………三三三
 中米及南米
 伯刺西爾移民の狀況……………三三三
 伯刺西爾政府の日本移民渡航費補助
 中止……………三三三
 濠洲及附加諸島
 濠洲ニュー・サウス・ウェルス州新首
 相の日本移民反對演說……………三三三
 西比利亞
 西比利亞在留民事情……………三三三

○國內移民問題

浦鹽在留邦人大會……………三三六
 西比利亞撤兵と居留民引揚……………三三六
 海外移民對策
 移民局設置建議案可決……………三三六
 政府の南米移民獎勵策……………三三六

○移民問題

移入鮮人の狀況……………四〇〇
 大阪に於る鮮人勞働者狀況……………四〇一
 兵庫縣に於る鮮人勞働者狀況……………四〇二
 信濃川鮮人虐殺事件……………四〇三
 支那人勞働者退去命令事件……………四〇四
 小揚人足の支那人勞働者退去懇請……………四〇四

第二十編 國際勞働問題

○國際勞働事務局の組織
 勞働審理委員會……………四〇六

○勞働理事會
 第十一回勞働理事會……………四〇七
 第十二回勞働理事會……………四〇九
 第十三回勞働理事會……………四一一
 第十四回勞働理事會……………四一二
 第十五回勞働理事會……………四一三
 勞働理事會の改選……………四一三
 第一回勞働理事會……………四一三

○常設国際司法裁判所への諮問事項

海事聯合委員會……………四三

國際労働機關の權限問題……………四四

平和條約解釋問題……………四六

○第四回國際労働總會

會議事項及會議期日……………四七

總會に關する國內諸問題……………四八

代表者選定……………四八

労働代表反對運動……………四九

國際労働總會否認運動……………四九

總會の經過……………四九

労働理事會組織改正問題……………四九

労働總會開會度數問題……………五〇

移民統計問題……………五〇

條約案改正方法問題……………五〇

失業問題……………五〇

資格審査問題……………五〇

總會の結果……………五〇

移民に關する情報に就ての勸告……………五〇

理事會組織に關する條約文改正案の決議……………五〇

労働總會開會度數に關する條約文改正案の決議……………五一

正案の決議……………五一

失業の調査に關する決議……………五一

○條約案の批准

國際労働事務局長の條約案批准現況に就ての演説……………五三

労働條約批准一覽表……………五三

我が國に於る労働條約案の運命……………五五

○各國立法狀況……………五五

第二十一編 労働立法

○法律

船員職業紹介法……………五九

健康保險法……………六〇

借地借家調停法……………六一

簡易生命保險法改正法……………六一

○法案

過激社會運動取締法案……………六二

國民黨の労働組合法案……………六二

國民黨の農業組合法案……………六二

國民黨の工場法改正法案……………六二

憲政會の失業保險法案……………六二

憲政會の労働關係諸法案……………六二

治安警察法改正法案……………六二

借家法改正法案……………六二

小作調停法案……………六二

第二十二編 政治一斑

普選問題……………六四

軍備縮小問題……………六四

陪審法案……………六四

過激社會運動取締法案……………六四

昇格案……………六四

革新俱樂部の誕生……………六五

大連會議及長春會議、附西比利亞撤兵……………六五

第二十三編 財政一斑

○財政狀態

十一年度歲計豫算……………五三

府縣稅戶數割規則施行細則及改正……………五四

稅制整理案の内容……………五五

○財政に關する主要運動

營業稅廢止運動……………六一

新戶數割規則改廢運動……………六一

義務教育費國庫負擔運動……………六二

第二十四編 經濟一斑

物價……………六四

外國貿易……………六五

企業……………六七

金融……………六九

日本經濟聯盟會の成立……………七三

第二十五編 雜

○社會團體の成立

全國水平社の創立……………七五

赤化防止團の創立……………七五

國粹會の活躍……………七六

大和民勞會山梨支部の發會……………七六

○社會問題機關の新設及組織變更

社會局の新設……………七六

橫濱社會問題研究所の設立……………七七

大原社會問題研究所の法人設定……………七七

○雜

露西亞飢饉救濟問題……………七七

サンガ夫人の來朝……………七七

特殊記事目次終

所揭統計表目次

勞働爭議

1 大正十一年上半期に於る勞働爭議統計……………	七
イ 經過別爭議件數及人員……………	七
ロ 原因別爭議件數及人員……………	七
2 大正十年中各地勞働爭議統計……………	六
イ 大阪市並に接續町村に於る勞働爭議……………	六
ロ 福岡縣下勞働爭議……………	六
ハ 愛媛縣下勞働爭議……………	六
3 大正十一年中の主要なる勞働爭議統計……………	元
(當研究所調査)	元
イ 業態別月別爭議件數……………	元
ロ 府縣別爭議件數……………	元
ハ 原因別爭議件數……………	元
ニ 業態別原因別爭議件數……………	元
ホ 業態別勞働運動別爭議件數……………	元
ヘ 業態別結果爭議件數……………	元

勞働者狀態

○勞働者數・性及年齡等

一 工業勞働者	
1 諸官廳直轄工場職工數累年表……………	七
2 諸官廳直轄工場所管別職工數……………	七
3 私營工場平均一日使用職工數累年表……………	六
4 私營工場業態別平均一日使用職工……………	六

所揭統計表目次

數累年表……………

5 私營工場府縣別平均一日使用職工數……………	七
6 各地に於る工場勞働者數……………	七
イ 東京府下工場勞働者數業態別表……………	七
ロ 大阪府下工場勞働者數業態別表……………	七
7 各官廳直轄工場職工年齡別表……………	七
8 私營工場職工業態別年齡別表……………	七
9 東京府下工場勞働者年齡別……………	七
二 鑛業勞働者	
1 鑛山鑛夫數累年表……………	七
2 鑛山種別性別鑛夫數……………	七
3 各府縣別鑛山鑛夫數……………	七
4 業態別鑛夫數……………	七
5 鑛夫年齡別表……………	七
三 交通勞働者	
1 鐵道從業員累年表……………	七
2 國有鐵道從業員性別表……………	七
3 馬車鐵道・人車鐵道及汽動車鐵道車輛數累年表……………	七
4 諸車數累年表……………	七
5 船員累年表……………	七
6 郵便電信電話局職員累年表……………	七
7 通信現業員狀態調查結果……………	七
イ 雇員備人數……………	八
ロ 雇員備人年齡別在職年數別表……………	八

○勞働時間

1 諸官廳直轄工場就業日數及時間……………	八
2 私設工場職工一箇月休業日數……………	八
3 綿絲紡績工場就業日數及就業時間……………	八
4 工場法第五條に依り夜間作業を行ふ工場職工業務別表……………	八
5 工場法第六條に依り夜間作業を行……………	八

○労働賃銀

ふ工場職工業務別表……………八五

1 賃銀指数……………八六

2 大正十一年労働賃銀趨勢……………八九

3 大正十一年下半年東京に於る賃銀指数……………九〇

4 大正十一年度大阪に於る賃銀指数……………九〇

5 通信現業局雇員傭人俸給平均額……………九〇

6 六大都市一二等局雇員傭人俸給平均額……………九〇

7 六大都市電話局職員俸給平均額……………九〇

○労働災害

一 工場災害

1 業態別災害者数……………九一

2 類別負傷者数……………九一

3 負傷結末業態別表……………九二

二 鑛山災害

1 鑛山變災死傷人員累年表……………九二

2 鑛山種別變災死傷人員表……………九二

三 交通災害

鐵道事故件数及死傷職員數累年表……………九三

失業問題

○失業狀況

一 工業に於る失業

1 解雇雇入職工數比較表……………九六

2 各種工場別に依る職工解雇雇入超過數比較表……………九六

3 解雇雇入職工男女別比較表……………九六

○對失業施設

4 各種工場別に依る男職工解雇雇入超過數比較表……………九七

5 大正十一年工場種別に依る男女解雇雇入超過數比較表……………九七

二 鑛業に於る失業

1 福岡鑛務署管内鑛夫移動表……………九八

2 東京鑛務署管内鑛夫移動表……………九八

3 福岡鑛務署管内鑛夫解雇雇入數比較表……………九八

4 東京鑛務署管内鑛夫解雇雇入數比較表……………九八

5 福岡東京兩鑛務署管内鑛夫増減表……………九八

イ 全國職業紹介所數……………一〇八

ロ 職業紹介所數各府縣別表……………一〇八

ハ 自大正十一年一月職業紹介所各府縣別成績表……………一〇九

ニ 自大正十一年四月職業紹介所各府縣別成績表……………一一〇

ホ 自大正十一年一月職業紹介所業態別成績表……………一一一

ヘ 自大正十一年四月職業紹介所業態別成績表……………一一一

福利増進施設

○共済組合

○職工扶助給與

1 官廳現業員共済組合

イ 組合員數累年表……………一一二

ロ 大正九年度に於る各共済組合收入狀況……………一一三

ハ 大正九年度に於る各共済組合支出狀況……………一一三

2 各地方共済組合

イ 山口縣下工場共済組合狀況……………一一三

ロ 和歌山縣下工場共済組合狀況……………一一四

1 職工扶助給與調査

イ 治療及療養費支給……………一二六

ロ 休業扶助料……………一二六

ハ 一時扶助料……………一二六

ニ 傷害扶助料……………一二六

ホ 遺族扶助料……………一二六

ヘ 葬祭料……………一二七

ハ 栃木縣に於る扶助金額及歸郷旅費……………一二七

○住宅施設

適用工場の業務別に依り寄宿舎の有無別及通勤寄宿別の職工比較表……………一二〇

社會保險及職工貯蓄

○社會保險

イ 簡易生命保險成績累年表……………一二〇

ロ 簡易生命保險契約狀況……………一二〇

ハ 簡易生命保險者職業別……………一二〇

○職工貯蓄

一 工場貯蓄管理方法別 一五〇

二 郵便貯金

イ 中央金庫預り郵便貯金累年表 一五〇

ロ 郵便貯金状況累月表 一五一

ハ 人員及預金現在額 一五三

ニ 大正十一年七月中預入拂戻口數及金額 一五三

三 貯蓄銀行貯蓄預金

1 貯蓄銀行貯蓄預金累年表 一五三

2 大正九年貯蓄銀行貯蓄預金者職業別 一五三

四 各府縣に於る職工貯蓄

1 神奈川縣下職工貯蓄 一五三

2 長野縣下職工貯蓄 一五三

3 福岡縣下職工貯蓄 一五四

4 兵庫縣下職工貯蓄 一五四

5 和歌山縣下職工貯蓄 一五四

6 栃木縣下職工貯蓄 一五四

7 山梨縣下職工貯蓄 一五五

8 山口縣下職工貯蓄 一五五

9 愛知縣下職工貯蓄 一五五

労働者教育問題

○労働者教育程度

1 大阪府下官公營事業従事労働者教育程度調 一五八

2 福岡縣下鑛山労働者教育程度調査 一五九

3 福岡縣下工場労働者教育程度調査 一五九

4 全國職業紹介所求職者教育程度調 一五九

所掲統計表目次

查 一五九

○労働者教育機關狀況

實業補習學校及徒弟學校

イ 公私立實業補習學校々數及生徒數累年表 一五九

ロ 徒弟學校々數及生徒數累年表 一五九

ハ 福岡市立實業補習學校生徒狀況調査表 一六〇

協調會藏前工業專修學校生徒狀況 一六〇

大阪市商工徒弟補習教育講習會成績 一六〇

工場に於る教育施設狀況 一六二

農村問題

○農業概況

1 總戸數及農家戸數 一八一

2 耕地所有の廣狹に依り區別したる地方戸數 一八一

3 耕作する耕地の廣狹に依り區別したる農家戸數 一八二

4 農業に關する教育を受けたる者の現在數 一八三

大正十一年麥收穫高 一八六

大正十一年米收穫豫想高 一八七

○小作問題

一 小作及び小作人狀態

1 自作・小作・自作兼小作各農家戸數 一八八

2 自作田畑及小作田畑の區別 一八八

3 岐阜縣下自作及小作分配狀態 一九〇

4 小作料狀態 一九〇

イ 全國小作料 一九〇

ハ 各府縣各地方の小作料

東京府 一九一

東京府南多摩郡日野町 一九一

大阪府 一九一

大阪府泉南郡 一九一

大阪府西成郡 一九一

兵庫縣 一九一

岡山縣勝田郡 一九二

和歌山縣 一九二

鳥根縣簸川郡 一九二

5 農家經濟狀態

イ 農家經濟(大正九年度概況)調査 一九三

ロ 各府縣各地方の農家經濟調査

東京府南多摩郡加住村自作農經濟狀態 一九四

大阪府三島郡農家經濟狀態 一九五

兵庫縣三原郡小作農收支狀態 一九五

兵庫縣下農家生計狀態 一九六

茨城縣下農家收支狀態 一九六

岐阜縣下農家の公租公課負擔額 一九七

二 小作爭議

1 小作爭議統計

イ 爭議件數 一九七

ロ 爭議原因別 一九八

ハ 要求事項別 一九八

ニ 爭議結果 一九八

ホ 大正十一年中小作爭議統計 一九八

2 小作爭議の原因及小作人の要求條件……………一九九

3 大正十一年度小作返還地面積府縣別……………二〇〇

4 大正十一年中主要小作爭議統計(當研究所調査)……………二〇一

イ 主要爭議件數月別……………二〇一

ロ 主要爭議件數府縣別……………二〇二

ハ 主要爭議發生原因月別……………二〇三

ニ 主要爭議中特殊の經過を取れるもの月別……………二〇三

ホ 主要爭議解決件數月別……………二〇三

ヘ 主要爭議結果月別……………二〇三

三 小作組合

イ 組合數府縣別……………二〇二

ロ 組合數増加趨勢……………二〇二

ハ 組合の範圍……………二〇三

ニ 組合設立年次別……………二〇三

ホ 組合員數別組合數……………二〇三

女子職業問題

○女子職業一般

1 栃木縣下女子職業狀況……………二〇七

2 宇都宮市女子職業狀況……………二〇七

3 四日市市女子職業狀況……………二〇八

4 三重縣鈴鹿郡下女子職業狀況……………二〇九

5 新潟縣出稼婦人狀況……………二〇九

○女工問題

1 工場在勤女工數統計……………二一〇

2 女工々場種別統計……………二二〇

3 鑛山女工統計……………二二〇

4 工場女工年齡表……………二二〇

5 鑛山女工年齡表……………二二〇

6 名古屋市西區江川町醫管内四紡績工場女工年齡表……………二二〇

7 女工病類別患者實數……………二二一

8 燐寸軸木工場に於る婦人勞働者の育兒調査結果……………二二一

9 長崎縣紡績女工退職者狀態及健康調査結果……………二二二

○女教員問題

1 全國小學校及高等女學校女教員數統計……………二二四

2 全國小學校及高等女學校女教員の男教員百人に對する割合累年表……………二二四

3 大阪府女教員分娩數調査……………二二五

4 長野縣女教員分娩調査……………二二五

5 廣島縣安藝郡女教員産前産後休養實狀……………二二五

○藝娼妓私娼問題

藝娼妓私娼數及狀態

1 東京府……………二二八

2 大阪府……………二二八

3 京都府……………二二九

4 兵庫縣……………二二九

5 滋賀縣……………二二九

6 愛知縣……………二二九

7 岐阜縣……………二二九

○其他の職業婦人問題

8 三重縣……………二五〇

9 山口縣……………二五〇

10 全國接客娼婦調査結果……………二五〇

11 調査娼妓生活費……………二五一

12 藝娼妓酌婦前借金申告額……………二五二

通信現業女子職員狀況……………二五九

東京中央電話局健康診斷書成績……………二五九

派出婦人會調査結果……………二六〇

少年勞働問題

○少年勞働者數

A 工場に於る少年勞働者

1 工場職工年齡別表……………二六三

2 性別年齡別業態別職工數……………二六三

3 保護職工數……………二六五

4 東京市内工場性別年齡別業態別職工數(一)……………二六五

5 同上(二)……………二六六

6 大阪市内工場性別年齡別業態別職工數……………二六六

7 東京府下工場性別年齡別業態別職工數……………二六六

B 鑛山に於る少年勞働者

1 鑛山鑛夫年齡別表……………二六七

2 福岡縣職工鑛夫年齡別表……………二六八

C 自大正十年七月一年間求職者年齡調至同十一年六月……………二六八

○少年勞働者の賃銀

1 大正十一年に於る定額日給 二六八

2 大正十一年に於る實數日額 二六九

○少年労働者と教育

全國工場に於る學齡兒童工業種別表 二七〇

全國工場に於る兒童就學場所別就學時刻別表 二七〇

○少年労働者と災害

1 工場災害年齢別表 二七一

2 鑛山變災死傷人員年齢別表 二七二

○附記

大阪市立少年職業相談所大正十一年事業成績

イ 年齢別相談種別 二七三

ロ 求人件數及人員 二七四

俸給生活者問題

○俸給生活者一般

1 俸給生活者の生活費 二七六

2 俸給生活者の住宅費 二七七

○教員問題

1 教員の數

イ 小學校教員數 二八五

ロ 中等學校教員數 二八五

ハ 官公私立別中等學校教員數 二八五

2 俸給

イ 小學校教員

1 小學校教員俸給月額平均府縣

所掲統計表目次

別表

1 東京府下小學校教員平均俸給 二八六

2 東京府下小學校教員平均俸給 二八七

3 東京市各區小學校教員平均俸給 二八七

4 大阪府下小學校教員平均俸給 二八七

5 兵庫縣下小學校教員平均俸給 二八七

6 岡山縣下小學校教員平均俸給 二八七

7 福井縣下小學校教員平均俸給 二八八

8 埼玉縣下小學校教員平均俸給 二八八

中等學校教員

1 全國中等學校教員平均俸給累年比較 二八八

2 大正十一年度豫算中等學校教員平均俸給府縣別表 二八九

○官公吏問題

1 官公吏の數

イ 官吏數 三〇〇

ロ 警察職員數 三〇〇

ハ 府縣郡吏員數 三〇〇

ニ 市町村吏員數 三〇〇

2 俸給

イ 官吏平均年俸 三〇一

ロ 警察職員平均月俸 三〇一

ハ 府縣郡及市町村吏員平均年俸 三〇一

3 年齢

1 警視廳警部補巡查年齢別 三〇一

2 大阪警察部警察官年齢別 三〇一

警察共済組合事業大要

1 組合員種類別異動 三〇五

救濟種類別

1 大阪市に於る勞賃及び食料品市價指數比較 三三三

2 大阪市に於る勞働者の常備賃銀及び所得の指數對照表 三三三

3 全國主要都市卸賣物價趨勢 三三四

4 各地小賣物價比較(一) 三三四

5 同 上(二) 三三五

6 東京市内に於る卸小賣相場差額 三三五

7 大阪市内に於る卸小賣相場差額 三三六

産業組合

○産業組合一般

1 産業組合數 三三五

2 産業組合聯合會數 三三五

3 生計用品購買を主とする組合數、組合員數其他 三三七

(一) 主として俸給生活者に關する組合 三三七

(二) 主として勞働者に關する組合 三三八

○消費組合

1 當研究所第三回全國消費組合調査結果

組合數 三三六

組合員數 三三六

組合員二千人以上の組合名表 三三七

資金種別表 三三七

賣却額多き組合表 三三八

一年間一人當り賣却額表……………三六八
 剩餘金處分……………三六八
 東京建築信用購買組合狀況表……………三六九
 大阪府下に於る消費組合累年表……………三五三

住宅問題

住宅爭議統計(當研究所調査)
 1 大正十一年中住宅爭議件數月別統計……………三五八
 2 住宅爭議件數府縣別表……………三五八
 3 住宅爭議原因別統計……………三五九

人口問題

○人口靜態(大正十一年十月一日推計人口)
 イ 人口の道府縣別……………三六五
 ロ 人口十萬以上の市區人口……………三六五
 ハ 人口の密度……………三六五
 ニ 人口の男女別……………三六六

○人口動態(大正十年)

1 道府縣別人口動態統計……………三七〇
 2 市區人口動態統計……………三七三

労働移民問題

○海外移民問題

一 海外移民一般
 1 海外移民數累年表……………三七五
 2 大正九年中海外移民渡航地別(一)……………三七五
 3 同上(二)……………三七五
 4 海外在留本邦内地人々口累年表……………三七五

5 海外在留地別本邦内地人々口表……………三七五
 6 主要渡航地別主要職業別海外在留本邦内地人數……………三七六
 7 各府縣への海外移民故郷送金額……………三七七
 イ 和歌山縣……………三七七
 ロ 鹿兒島縣……………三七八
 ハ 熊本縣……………三七八
 ニ 岡山縣……………三七八

二 北米合衆國及加奈陀

1 在留民の數……………三七八
 イ 北米合衆國本土……………三七八
 ロ 布哇……………三七九
 ハ 英領加奈陀……………三七九
 2 在留民の職業……………三七九
 イ 北米合衆國……………三八〇
 ロ 布哇……………三八〇
 ハ 英領加奈陀……………三八一
 三 中米及南米
 1 在留民の數……………三八八
 イ 墨西哥及中米……………三八八
 ロ 南米……………三八八
 2 在留民の職業……………三八九
 イ 墨西哥及中米……………三八九
 ロ 南米……………三八九

四 濠洲及附近諸島

1 在留民の數……………三九三
 2 在留民の職業……………三九三
 五 西比利亞
 1 在留民の數……………三九四
 2 在留本邦内地人の職業……………三九五

○國內移民問題

1 移民の數……………三九七
 イ 北海道……………三九七
 ロ 臺灣……………三九七
 ハ 關東州……………三九八

○移人民問題

1 本邦在留支那人朝鮮人等の數……………四〇〇
 2 朝鮮人内地渡航數……………四〇〇
 3 朝鮮人渡航者歸還者數……………四〇〇
 4 渡航朝鮮人労働者内地分布狀況……………四〇〇
 大阪に於る鮮人労働者狀態
 職業と收入……………四〇一
 府下鮮人労働者三十名以上雇傭工場數……………四〇二
 性別勤續期間別……………四〇二
 年齢別配偶有無別……………四〇三
 市内小學校鮮人就學兒童數……………四〇三
 兵庫縣下在留鮮人數……………四〇三

財政一斑

十一年度確定豫算表……………四〇二
 總豫算前年比較表……………四〇三

經濟一斑

○物價

1 總平均指數月別比較表……………四〇四
 2 内外物價指數對照表……………四〇五
 3 東京市卸賣物價指數類別指數比較表……………四〇五

○外國貿易

1	輸出貿易額月別	四六六
2	輸入貿易額月別	四六六
3	主要輸出入品價額	四六六
4	重要國別貿易額	四六七

○企業

1	銀行會社計畫資本累年比較表	四六七
2	銀行會社計畫資本累月比較表	四六八
3	事業別計畫資本調	四六八

○金融

1	正貨減少趨勢表	四六九
2	全國交換所組合銀行預金貸出表	四七〇
3	取付銀行表	四七〇
4	日本銀行兌換券發行高及貸出高	四七一
5	東西金利表	四七一

所揭統計表目次終

所揭統計表目次

日本労働年鑑

(大正拾貳年度版)

と苦心とが何れの労働組合に於ても、明瞭に感知せらるゝに到つたことである。

第一編 労働組合

第一 既成組合の運動

概説

來抗争せる主張の分野を明確にしたものであるとされた。實際創立大會決裂の前後に

一 日本労働總同盟

大正十一年は日本の労働運動史上、可成り重要な轉期として記録せらるゝであらう。全國の労働組合が總聯合運動を通じて、二つの分派に識別せらるゝに到つたのも、更に労働運動が漸次唯心主義的『理想』と絶縁しかけて來たのもこの年であつた。而して最後に労働運動の戦線が經濟的範圍より脱出し、所謂無産階級の政治運動が主張されて來たのも亦本年であつた。

來ては、アナルキズムを主張する一群と、ボルセヴキズムに左袒する一派とは、明かな一線を劃して對立し論争したのである。隨つて、從來漠然と考へられてゐた、労働組合の組織に就ての原則の相違が、明確に意識せられ主張せられた結果、労働組合界は二つの分派に對立するに到つた。その後それ等の二派の間に更に離合の行はれようとする傾が見えて來たが、その歸着を見るのはなほ今後幾多の曲折を経てのことであらう。但茲に留意すべきは、労働組合の組織の原則に就て論争の交はされた結果、労働組合の組織の實際に就て、改造の努力

同同盟の大正十一年に於ける運動及び其の内部に於ける各種の出來事を見るに、多事の一年であつたと云ひ得る。内部に於ける二三の動搖はあり、殊に秋に入つて日本労働聯合會の成立するや其の間に可成りの波瀾を生じたのであるが、然かも尙よく其の同盟の結束を維持し行くを得たことは成功であつと云ひ得る。況んや日本の各地方に新しき支部を設置し、着々として其の歩武を進め行き、工場労働者の範圍のみならず、各種業態の間に其の運動の域を擴め、遂に驥足を朝鮮にまで延ばすに至つたことは確かに注目し得る。以下同盟が大正十

九月三十日の創立大會を以て決裂したる、全國労働組合の總聯合運動の決裂は、唯に労働運動の範圍に於てのみならず、更に社會主義運動の範圍に互つて、二つの數年

労働組合の組織の實際に就て、改造の努力

以下同盟が大正十

一年中に行つた運動を概説するであらう。

1 大會

大正十一年中開催されたものは、

關西労働同盟會大會(四月二日)
關東労働同盟會大會(七月三十日)
労働總同盟第十一年大會(十月一日三日、三日間)

の三つであつた。今、左の其の會合の經過の概要を記さう。

イ 關西労働同盟會大會

日本労働總同盟關西労働同盟會第五回大會、四月二日午前十時より大阪市天王寺公會堂に於て開かる。加盟組合十五、出席代議員百五十名、提出議案は左の如くである

- 一 普選運動に對する同盟會の態度を決定する爲め左の聲明をなす件
- (イ) 一般民衆の名に依りて爲さる、普選運動には反對せず
- (ロ) 労働團體として普選運動を爲すは尠なく却つて弊害あるものと認む
- (ハ) されば吾が關西労働同盟會は普選運動を爲さず右原案中より(イ)の條項全部を削ることに修正可決
- 二 右普選運動可決案を一般投票に問ふ件 (否決)

三 會則改正案(理事選出比例の改正)(原案可決)

四 メーデー實行の件(實行方法は理事會一任、可決)

五 白表登録制度設定の件(労働運動を妨害する官憲、資本家及同盟罷工の裏切者の氏名と其行爲を毎年大會の決議に依つて登録し、其社會的活動に徹底的に反對する意味にて、可決)

六 名實相伴ふ全國的労働總同盟の組織を日本労働總同盟本部に提出する件(可決)

七 罷工統制權廢止案(可決)

八 爭議失敗後には怠業を可とする件(可決)

右の内六の總同盟組織の提案は、後の労働組合總聯合運動の發端をなしたものであり、七の罷工統制權の廢止は前年秋の大會に於て敗北せる京都聯合會を中心とせる急進派の意見の勝利であつて、既に罷工統制制度を實施せる大阪聯合會に就ては拘束を加へず、關西同盟會としては統制々度を否定したのである。普選運動に就ての聲明は前年來の傾向を明確に表示したに過ぎないが、其決議を更に一般投票に問はんとする提案は一般投票に就ての見界の相違より少數の差を以て否決せられた。

右議事終了後、同盟會長に木村錠吉氏、副會長に小西喜代藏氏を選挙し、午後六時閉會した。

ロ 關東労働同盟會大會

七月三十日、東京市澁谷公會堂に於て開會、代議員百二十餘名、東京鐵工組合田口龜造氏を議長とし十六の議案を審議したがその内重要と認むべきものは左の四五であつた。

- 一 總同盟の宣言變更の件——現在の宣言の精神に『資本家と労働者とは其根本に一致なき事を明白にし』且つ『現社會改革の爲め、全労働者の一致團結に努力するものである』事を明かにする文句を附加すること(總同盟本部に提案することに可決)
- 一 總同盟主張中左の七ヶ條削除する件
- 九、婦人労働監督官を設くる事、十、労働保險法の實施、十一、爭議仲裁法の發布、十四、労働者住宅を公營にて改良を計る事、十六、内職労働改善、十九、保安警察法の改正、十八、普通選挙、
- (總同盟本部に提案することに可決)
- 一 本年度大會に於て總同盟内に全國的産業組合組織斷行を本部に建議すること(可決)
- 一 労働ロシア承認の件(可決)
- 一 國際労働會議否認の件(可決)
- 關東大會の決議を以て總同盟本部に建議

し、總同盟の名に於て該案の意を實行し、決議を以て世界各國労働團體へ右決議案の文書を送ること

一 全國的總同盟罷業の一項を主張中に入れること(可決)

なほ同大會に於ては緊急動議として

一 米國ストライキに對し應援文書を送ること

一 阪神電車爭議に激勵電報を送ること

等を決議した。後者の電文は左の如くである。諸君罷業の成敗は我國交通労働者の前途に重大なる關係を有す、決死的奮闘を祈る

ハ 労働總同盟第十一年大會

日本労働總同盟第十一年大會は、十月一、二、三の三日間に亘り、大阪天王寺公會に於て開催せられた。

十月一日朝、東京及び地方よりの代議員を迎へて、中之島公園に集合した總同盟會員約二千、『……年記念大會』の長旒を翻して天王寺公會堂へと示威運動を試み、午後一時より大會を開く。

前日の總聯合大會決裂の後を受けて、場内は緊張の氣分が漲つてゐた。友誼團體として向上會、日本農民組合、八幡同志會、名古屋労働團體代表者、工人會等の祝辭あ

り、鈴木文治氏を議長に擧げ、各種委員を指名

建議案委員 青柿善一郎氏外十六名
代議員資格審査委員 松岡駒吉氏外十六名
豫算委員 光吉悦心氏外十四名
法規委員 中村義明氏外十八名
會計審査委員 内田藤七外十七名

を選任し、松岡資格審査委員長より、參加組合四十九、代議員總數百二十二名の報告あり、更に松岡主事より、本部會務報告あり續いて、全日本鑛夫總聯合會の坂口義治氏、關東同盟會の内田藤七氏、野田聯合會の和田軌一郎氏、關西同盟會の東忠績氏より各會務報告ありて第一日を終り、其夜福島『いろは』に於て懇親會を開いた。

第二日、第三日議事を審議し決定する處左の如くである。

一 會則修正(本部提出)——會則十七條中『但し中央委員はその選舉區に於て適宜改選することを得』を附加すること(可決)

一 國際労働會議に關する決議文(本部提出) 吾人は國際労働會議を否認し更に萬國労働者階級の協力に依り有害無用なる同會議の壞滅を期す 右實行具體案として、大會の名を以て各國

労働組合及び國內に宣傳すること(可決)

一 普通教育改善運動開始の件(關西労働同盟會提出)——現代の普通教育は資本主義的にして、資本主義の謳歌、偶像崇拜、軍國主義及奴隸根性鼓吹等に満ちてゐる。故に之を人類愛と新社會建設の立場より、労働運動の一面の事業として改善運動を起すといふ主旨であつたが、多數議論を戦はしたる後、『普通教育弾劾』を可決すること左の如し

今日の兒童教育は資本主義的にして吾人無産階級の子弟を毒すること大なるが故に之を彈劾す

右實行方法としては(イ)總同盟の各機關紙を通じてその誤れる點を指摘し之を一般労働者の子弟に徹底せしむること(ロ)適宜なる方法に依り兒童用小冊子を發行すること

一 労働組合聯合運動に對する決議——前日の決裂に對する總同盟の態度を發表するたため決議文の決定及宣言の發表に可決(別項『總聯合創立大會』參照)

一 會則第十一條修正——中央委員會は決議機關にしてあるを、中央委員會は執行機關にして、大會の議決の範圍内に於て臨機の決議並に適宜の處置をなすを得との意味に修正すること(可決)

一 自衛團組織の件(京都聯合會提出)——常設的爭團體の組織は不得策なりとの意見多數にして提案者より撤回

一 本年度大會に於て總同盟内に全國的産業

組合の組織を断行する件(關東大會提出)
(可決)各組合一名の常設委員會を設置して
運動に着手することに決定

一 對露問題に關する決議文

イ 本大會は我が國政府がロシア全土より
無條件即時撤兵する事を要求す

ロ 本大會は我が國政府が勞農ロシア政府
を正式完全に承認し、即時通商を開始す
ることを要求す

右實行は、政府當路を鞭撻し各機關誌、演
說會等によつて輿論を喚起し、先きに文書
を起り來れる在英國對露不干涉委員會に回
答交を送ること(可決)

右議事を終了し、三日夕大會の幕を閉ぢ
たが、同大會に於ては綱領、宣言、主張を
修正し若くば新たに發表した。

2 地方聯合會及支部會

イ 關西聯合會

直屬宣傳部の成立(四月十一日)

ロ 大阪聯合會

大會(十月三十日)——大阪西區中通的共益
社に開會、代議員約五十名、議事及び決定
如左、

- 一 聯合會で定期講演會開催の件(可決)
- 一 査問委員會設置の件(各組合より一
名宛の委員を選び査問會を開くことに
決定)

- 一 修養園に對する反對運動の件(積極
的撲滅運動を起すことに決定)
 - 一 罷業統制制度改正の件(議決保留)
- 會長の改選あり平井美人氏當選した。

ハ 大阪合同労働組合

代議員 (五月十六日)——組合長に松澤兼人
氏、顧問に賀川豊彦氏を推した。

ニ 大阪機械労働組合

第三回大會(三月二十七日)——共益社にて開
催、出席代議員五十六名、西尾末廣氏議長
となり協議決定せる主なる事項左の如し

- 一 支部發展上に必要と理事會に於て認
めたる時は、金三十圓以内を六ヶ月以
内に返納せしむる條件にて支部に貸與
することを得る件(可決)
- 一 ストライキ統制權廢止案を同盟大會
に提出する件(否決)
- 一 機械工業に關係ある労働組合の全國
的聯盟の組織運動を起す件(可決)

仲銅工組合

代議會(五月十四日)——可決條項如左

- 一 仲銅工組合新進會と云ふ名より新進
會の三字を削除すること
- 一 組合教育及運動の主旨を徹底すべく
地方別茶話會を奨励すること
- 一 基金貯金方法を改正すること
- 一 人事係を設置して労働争議による失
業救済及其他に用ひ方すること

- 一 速記部を設置すること
- 一 犠牲者救済基金を三箇月十錢づゝ會
員より積立てること
- 一 創立記念祭をなして組合の闘争意識
を鞏固にすること
- 一 運動部を設置すること

尙ほ右の外

- 一 組合主張中より「普選實行を促す」と
謂ふ條件削除のこと(議論の後可決)
- 一 組合にて白表登録の件(人名を秘密
とすることに決定)

役員選舉あり、賀川豊彦氏を組合長に再選
幹部會(十一月二十一日)——住友工場爆発死
傷者による會社の態度に對して豫め協議し
た

ヘ 神戸聯合會

主事藤岡文六氏辭任し、柴田富太郎氏後任と
なる(四月)

- 一 主事柴田富太郎氏辭任、青柿善一郎氏代る(十
一月)

ト 中部労働組合聯合會

三月中、日本労働總同盟との内部的連絡成る
臨時總會(十月十五日)——日本労働組合總聯
合決裂經過報告其他

チ 金澤支部

第四回支部大會(六月四日)——労働問題講演
會を催す

リ 尼崎合同組合

大阪聯合會より獨立して、尼崎聯合會を組織す(十月二十日)

3 組合設置運動

として注目すべきものは、

全日本鑛夫總聯合會の筑豊炭坑地方に於ける運動

同盟本部の朝鮮遊説と京城支部開會及び朝鮮労働聯盟の組織

である。今、左に其の概略を摘記しよう。

イ 筑豊炭坑地方に於ける運動

元労友會長で全日本鑛夫總聯合會の淺原健三氏外七名は、四月下旬、貝島炭坑經營の福岡縣鞍手郡滿の浦、桐野、大野浦各炭坑を劈頭に、同郡新入炭坑で、宣傳ピラ撒布、大道演説を試み今まで拘安の夢にあつた北九州地方の炭坑主等の心を寒からしめた。かくて月餘の運動によつて各炭坑に宣傳を試みた時、東京より麻布久氏來り、五月二十八日夜、八幡市ハイカラ館に宣傳演説會を開催した。

同演説會は聽衆二千餘名、滿員にて場外に溢れたるもの千餘名を算し、少しの混亂はあつたが、十時過ぎ無事散會した。然るに同會場よりの歸途、麻生氏等の自動車は暴漢の襲ふ所となつたが、差したることも無かつた。

斯くて八幡市に第一聲を上げた麻生淺原氏等は翌二十九日筑豊方面へ向けて出發した。而して本部を筑豊線金田町に設置して、三井、三菱、貝島、麻生、安川等の炭坑に宣傳ピラ十數萬枚

労働組合

を撒布して、必死の運動を始めた。然し炭坑主連は之に對して極力防止の策を講じ、其の間、聯合會員の二三が炭坑の人事係に毆打され、之に對して聯合會側は其の炭坑の人事掛詰所を襲うて人事係を袋叩きにしたと云ふ騒動もあつた。七月二日東京より加藤勘十氏來援、なほ運動を進めてゐたが、七月十八日夜、伊田町なる三井田川炭坑夫事務所應援所に於て加藤、淺原氏等は國粹會筑豊支部長副支部長其他幹部と會見の一幕を演じた。八月二日には麻生久氏又來援したが、殆んど獲る所なくして終つた。

ロ 朝鮮に於る運動

鈴木文治氏は七月十五日京城に着、翌十六日午後二時半より日本労働總同盟京城支部の發會式を擧げ、十八日には鐘路青年會館で労働問題講演會を開催した。しかし朝鮮今日の労働界の狀態は支那人労働者の排斥を目的とするもので内地に於けるが如き勞資關係に存するものではないから、労働組合の組織は尙早であると云はれてた。

然るに十一月四日に至り、朝鮮の各労働團體は京城工業協會に代表者を集合せしめ、朝鮮人労働者全部を糾合する朝鮮労働聯盟を組織し、日本労働總同盟に對して提携を申込んで來た。

4 労働運動

同同盟が行ひ、又は參加した労働運動は第二編『労働運動』中に記述して置いた。

5 關係せる労働爭議

同同盟が關係した爭議は第三編『労働爭議』中に擧げてある。

6 加盟には脱退せる組合

大正十一年中に同同盟に加盟又は脱退した労働組合の主なるものを擧れば、左の如くである。

イ 既成組合の加盟

日本タイピスト組合(會員三百餘名)(二月)
電線工組合(住友電線製造所職工約千名)(四月)

名古屋労働者協會(十月)

ロ 組合の成立と加盟

兵庫縣魚崎郷酒樽職工(約六十名)と魚崎支部發會(一月)

尼伸銅所職工(百餘名)と第十七支部の設立(一月)

和歌山機械工組合(約五百名)(三月)

女給同盟(四月)

堺市日本セルロイド會社職工と堺支部の設立(三月)

談笑俱樂部(阪神電車従業員三百餘名)(六月)

大阪紡績労働組合(男工約六百、女工約工約九十名)(九月)

革新會(堺市自動車職工六十餘名)(十一月)

ハ 脱退

大阪印刷工組合(五月)

7 雑

同同盟が關係し又は行動した其他の事項を列擧するならば

西伯利亞撤兵決議(五月二十八日)

労働組合總聯合との交渉(後段參照)

國際労働會議否認決議と田澤労働代表否認

(第二十編『國際労働問題』の項中參照)

神戸聯合會の赤衛團組織(七月)

二 官業労働總同盟

向上會、日本労働聯盟、小石川労働會、現業員組合、八幡同志會、横須賀尙風會等を加へて出來てゐる同總同盟は日本労働總同盟ほどの結合にまで進んではゐないが、大正十一年度に現はれた軍縮失業てふ共通の利害關係に立つて、餘程緊密の度を加へて來た。其處で先づ同總同盟全體の運動を叙し、次いで其元にある各組合の行動を述べようと思ふ。

1 官業労働總同盟

として行つた大正十一年中に於ける主な事項を擧ぐれば、

第三回官業労働者大會(二月九日—十一日、三

日間)——(第五編『先業問題』中の第二對

失業運動」の項參照)

全國會員の對失業示威運動(三月二十一日)——(同右參照)

官業労働者臨時大會(十二月十七、十八、二日

間)——(同右參照)

である。然るに大阪向上會に於ける内訌(「向上會」の節參照)の爲め、同總同盟内に意見の分立を見、第四回大會の開催に關し波瀾を捲き起し、幾多の曲屈を見たのであつた。左にそれについて事情の經過と略記しよう

第四回官業労働者大會開催に關する事

件と官業労働者臨時大會の開催

官業労働總同盟の第四回大會は大正十二年三月開會の豫定であつたが、吳、横須賀兩海軍工廠に軍縮第一次の馘首が行はれて以來、官業労働者は失業の不安に脅威されなほ明春には陸軍方面にも大淘汰あるべしとの豫想の爲めに、更らに落着かぬ状態に陥つたので、此際官業労働各組合が完全なる總聯合を遂げ、同一綱領の下に進退する必要に迫られた。

其處で日本労働聯盟の安達理事は十一月

上旬、下阪して第四回大會を同月二十日頃大阪に擧げること力めた。而して其の協議の眼目は、

- 一 陸軍職工の勤続手當を海軍職工と同等ならしむる運動(從來海軍は毎年此の手當を支給してゐるが陸軍は馘首の時だけである)
- 二 請負工の日給を常備工と同等にすること
- 三 失業手當も海軍が多く陸軍が少いからこれを同率にすること
- 四 大阪砲兵工廠向上會の分立に對し當局の壓迫がある場合には官業労働の名によつて防止すること

等であつた。然るに種々の關係、事情によつて、其の實現を見ることが出來ず、同理事は八日八幡市に赴き、八幡同志會本部に於て同夜臨時幹部會を開いて、十一月二十日より五日間八幡市に於て大會開催の件を議したが、決定せず、十日夜理事會を開いた。然るに大會開催決行を主張する派と、當然來年三月には開くのであるから急いで開く要なしと主張する派と、八幡同志會は斷然官業労働總同盟より獨立せんと主張する派と、議論三分して決せず且つ九日朝大阪向上會より委員二名を急派すべしとの來電

があつたので、向上會委員の來着まで理事會の決議を保留することとなり、かくて安達理事は同夜十一時吳に向つて同市を去つた。

十三日大阪向上會本部より廣永、松尾二氏來着、同夜理事會を開いて凝議したが、刷新派向上會と八木氏向上會とを同志會が承認するか否かの問題で行き語り、遂に同理事會は「八木君を官業労働者として認めずてふ決議を爲した。其の結果、向上會の刷新派と八木派とを同時に呼び寄せやうとする安達理事提案の大會は當然立ち消えとなり、何等決定せずして終つた。

越えて十二月八日、關東側は大阪向上會より上京した廣永、大野二氏を加へて關東聯合會幹部會を開き、全國的官業労働協議大會を十二月十七日東京に開くことに決し該會には八木派を關與せしめざることにした。

斯くて官業労働臨時大會は十二月十七日東京市神田區松本亭に開催せらるることとなつた。參加組合は日本労働聯盟、現業員

組合、小石川労働會、八幡同志會、小倉向いて官業労働總同盟にまで其の影響を波及させたとは前節に述べた所で明らかであらう。今、大正十一年中に於る同會の状況を略記することしよう。

イ 大阪砲兵工廠提理彈劾事件
三月二十二日に端を發して四月十一日に「恨を呑んで隠忍する」といふ結言を残し、八木會長以下數名の幹事の馘首に惨敗の苦味を嘗めた同事件の経過は第三編『労働争議』中に詳述して置いた。

ロ 第四周年大會と組織變更
四月二十三日午前十時、中之島公會堂に開會、參會者約三千、八木會長座長となり組織改革斷行の決議をした。其の變更の要領は左の通り、

即ち全向上會を十五支部に分ち本部を大阪に置き十支部を以て大阪聯合會とし、三支部がら成る名古屋聯合會を置くなど日本労働總同盟と略同様の形式をとり、別に吳と小倉に各一支部宛を設けた、これと同時に従來の評議員制を改め會員二百名に對して一名宛の代議員制としこれに決議權を附することになつた

2 向上會

A 大阪本部

大正十一年に於ける労働組合關係の事件中、向上會に關する一項は特に注意すべきものがある。今秋に入つての同會内部の分裂は、同會に大動搖を與へたのみならず延

ハ 役員會と會長信任問題
五月六日夜開かれた大阪向上會役員會に

は、最高幹部より提出した規約改正の提案から一紛擾を捲起し、幹部の専制に對し日頃快からぬ役員より抗議が提起され、八木會長に對し三月分の運動費決算報告を迫るに至つた。十一日夜には理事会を開き、八木會長は退席の上、會長の信任不信任を問ふた所、満場一致で信任を可決した。しかし十三日夜に開かれた組織變更後新に選出された各業態別工場の支部長會議にも、改めて其の會長信任を諮ることになつた。同會議は又多數を以て信任を可決し、臨時運動費決算報告、三月分會計報告も全部納得した。

二 組織變更後第一回大會と決議

八月六日午前十時、大阪中央公會堂に開會、小倉、名古屋、大阪各支部よりの代議員約五十名出席。役員選舉の結果、八木會長以下重任と決し、協議事項に入り左の通り決定、

- 一 軍縮に依る従業員の解雇に関する件
(軍縮に依る従業員の過剰人員數解雇者人選方法、手當及び解雇期日を當局に向つて問合せざる事と決定)

- 一 鐵工場の自營をなす件
- 一 全國的労働組合總聯合の促進運動の件
- 一 組織なき官業工場従業員に對し組合組織實現促進運動をなす件
(右三件は委員附託)

- 一 單農露國飢饉救済金募集の件(可決)
- 一 國際労働會議は吾等の信頼するに足らざるを以て日本労働團體向上會として之が否認の旨の打電を爲す件(會議否認の意思表示を電報でなく手紙でする事に修正可決)

- 一 政治運動は組合本來の目的たる労働運動に支障なき範圍内にて行ふ事(可決)

ホ 八木會長の辭職と中央委員會の態度
然るに八木會長は左の理由を稱して十一月一日附辭表を提出した。

- (一) 昨年十二月より官業労働者の失業手當が支給され當局の處置も大體に於て官業労働者の好評を得吾等労働者の運動上の難關が圓滿に解決を告げた

- (二) 労働組合幹部の生活費が組合より支給されて居るため「労働運動屋」とか「労働アローカー」とか云はれ甚だ心苦しいが正業に就いて居る一方運動を続けたい

- (三) 四年間の會長生活に心身共に疲勞して居るからこの際閑職に就いて静養したい
此の爲めに同會は鼎沸した。

五日午前十時、中央委員會を大阪市東區

島町受念寺に開く。委員及び本部役員二十一名の外は絶対に傍聴を許さず、七時間に涉つて密議した。而して八木氏の辭職承認を投票に問うた結果、本部役員四名棄權し承認賛成十票、反對六票で、辭職承認に決した。此處に於て八木氏擁護派である大阪砲兵工廠第三、五、六の各委員は脱會を聲明し、名古屋支部代表委員は向上會より分離獨立する旨を宣し、列席の同會顧問今井嘉幸氏は顧問を辭するに至つた。

へ 向上會と純向上會との對立
残つた向上會刷新派は翌六日夜、工廠内第一、四、八支部の總會を開いて一層の團結を圖つた。

之に對して八木派も同夜、大阪市外鯉江町の假本部で新團體の創立委員會を開いたそして向上會に對して「純向上會」と命名し、極めて露骨な對抗運動を始めることゝ成つた。

向上會大會——十一月二十三日午前十時
東區島町受念寺に開會、代議員本部役員五十名出席 會務執行機關の改正については、

從來の官僚主義的制度を廢して委員の合議制に改め、徳田楠之助氏を委員長、吉田、廣永兩氏を常務委員に推し、別に賀川豊彦、山名義鶴、村島歸之、小岩井淨の四氏を評議員に推薦した。

純向上會創立大會——十一月二十六日午前十時、大阪市東區玉造朝日座に開會、參會者約二百名、綱領主張其他の事項を協議した。可決された綱領主張其他如左。

綱領

- (一) 我等は我等の有する鞏固なる團結の威方により境遇を改善す
- (二) 我等は協力一致して品性の陶冶知識の啓發技術の練磨をはかり併せて相互扶助の目的を貫徹せんことを期す

主張

- (一) 労働組合の自由
- (二) 最低賃銀の確定
- (三) 八時間労働
- (四) 普通選挙
- (五) 治安警察法の改正

決議

我等は労働運動の獅子身中の蟲たる向上會刷新派の撲滅の爲めに全力をあげて努力する。

役員選挙の結果、八木氏會長に、河村政

治氏理事長に就任した。

其の後兩會の間には、基本金分配問題を生じ、紛亂を重ねて、事毎に反對の態度を示すことに成つた。

B 名古屋支部

十一月五日の大阪に於ける中央委員會に於て獨立を宣した名古屋支部は、七日夜熱田藥師堂にて幹部會を開いた。大阪より突如來名した八木氏は會長辭職問題について辯明を試み、同幹部會は十二日名古屋向上會創立大會を開催することを決し、且つ八木氏等の組織する新團體と提携せんことを決議した。

名古屋向上會創立發會式——十一月十二日午前十一時三十分、名古屋市熱田高砂座に開會、宣言會則の審議を終つて、少憩後西浦座長は八木信一氏を同會顧問に推薦せんことを諮つた、然るに賛否兩派に分れ遂に該問題は保留と決した。

C 小倉支部

二月二十六日、小倉市馬借町宗支寺に於て發會式舉行。

大阪向上會の分裂については向上會派、純向

上會派の何れに赴くかはまだ未定である。

D 吳支部

一月八日、發會式を擧げた。

3 日本労働聯盟

大會——五月二十七日午後四時半、東京市小石川區葎蕪園魔境内に開會、參會者約千名、左の決議をなし、六時半散會

- 一 昨年の官業労働總同盟大會に於ける決議の即時斷行を期す
 - 二 敵首一箇月前豫告すべし
 - 三 不合理なる轉聯命令には絶対に反對す
- 尙右決議文は理事より陸軍當局に提出した。

4 八幡同志會

第三期大會——一月十五日、八幡市に開かる。寒風雨の裡に、朝來示威運動を行ふ。八幡驛前に集る者約三千名と傳へられたが、十隊に別ちて各部署を整頓し、十時半出發、八幡市を貫きて、零時半兩國館西隣廣場に到る。二十有餘の長旒には「退職手當改善」「失業者救済」「恩給制度設置」「労働法案急施」「労働省設置」「労働保險實施」等の標語を大書し、列員は青色の三角小旗を手

にして、労働歌を高唱した。

廣場に於て、今井嘉幸氏の演説あつて、示威行列を解散し、兩國館に於て東京大阪より來援せる者の歓迎會を開いた。夜は大會を催し、勝部長次郎同志會長、過般大阪に於ける官業労働者大會の失業に關する決議事項を報告説明して滿場の賛成を得、公開演説會を以て終つた。

各地より來援せるは、今井嘉幸博士、東京労働聯盟幹事坂瓜定良、同理事安達和、大阪向上會長八木信一、同副會長廣永賢次、同理事丹羽市太郎の六名であつた。

戸畑支部發會式——三月二十六日午前十一時より戸畑東洋俱樂部にて開會、午後一時より労働問題演説會を催した。

第四回官業労働大會開催の件につき曲屈のあつたことは、既に「官業労働總同盟」の項下に述べた通りである。

5 關東聯合會

大會——十二月三日午後二時、東京市小石川區菟藟閣魔境内に開會、參會者約三百名、左の決議をした。

- 一 解雇手當日給二箇年分の要求
- 二 十二月十日から東京に官業労働大會を開くこと
- 三 工廠の請負制度廢止
- 四 陸軍聯工の賃錢を海軍聯工と同じにする事

三 日本海員組合

昨春既成海員團體二十餘を一纏とし船舶乗組普通海員約一萬人を抱擁しゐる同組合は

第一回總會——四月二十九日午前十時、神戸市平野株式取引所内共益俱樂部樓上に開會、出席者百八十名、

- 一 部長選舉
- 一 評議員甲板、機關、司厨各部五十名の選舉
- 一 組合規則改正の件等

の議案を議了し、午後一時より引續いて日本海員大會を開いて、郵船會社の内航分離問題を主題として論じ、左の決議を爲した。

生活と物價とは其の關係密接にして兩者一日も相離る可らざるにも拘らず労働者を驅つて物價調節乃至經費節約の犠牲に供せんとする

は不合理の甚しきものにして極端に労働者の生活を脅威するものなり故に労働賃金を引下げんとする以前に先以て國家的に物價調節政策を斷行せられんことを政府當局及び各實業團に提議すること

かくて夜は海員労働問題演説會を催した

第二 新組合の成立

新組合の成立に就いては、之を同盟會式組合の聯合と單なる組合の成立とに分つて觀察するのが適當であると思ふ。

一 同盟會の組織

に於ては、大正十一年に、

- 一 大阪に於る労働組合同盟會の組織
- 一 東京に於る機械労働組合聯盟の組織
- 一 労働組合總聯盟の組織計畫

を擧げなくてはならぬ。今、其の前後の經過を述ぶるならば、

1 大阪に於ける労働組合

同盟會の組織

日本労働總同盟に未加入の京阪労働諸團體と合して、同盟會を組織せんと計畫は

豫てより進んで来たが、愈々四月二十七日夜、大阪西區九條の大阪鐵工組合事務所、各組合の理事會を開くことに成り、遂に四月廿九日夜、大阪市民館に於て發會式を擧げ、續いて第一回の代議員會を開いた。主なる組合は

大阪鐵工組合
立憲造船労働組合
日本機械工組合
大阪友禪工組合
關西自由労働組合
京都印刷工組合
大阪皮革工組合

等である。斯かる間に労働組合總聯合の議漸く進むや、五月七日夜、代議員會を開き、左の決議を爲した。

決議

吾が労働組合同盟會は日本労働總同盟がその組織を根柢より解體して労働組合同盟會の如く加盟團體の完全なる自治權を認めるところの名實共に伴ふ全國的の同盟會の組織せられざる限り絶対に反對す

然し其後幾曲屈の後、漸く總同盟と共に労働組合總聯合の擧に躍進することに成つたが、其の總聯合は遂に次に述ぶるが如き

労働組合

經過を取つて決裂を見るに至り、同同盟會は東京の労働組合同盟會と相呼應して、反總同盟の態度を一層濃厚にしたのである。

2 労働組合總聯合創立計

晝と大會の經過

九月三十日、大阪天王寺公會堂に開られた日本労働組合聯合會創立大會は、いろいろな意味に於て、本年の労働運動史上特筆さるべき事件であらう。労働組合會に全國的聯合の氣運の漸次醸成せられつゝあつたことは、この年の初頭より感ぜられぬではなかつたが、その氣運を促進したものは四月大阪に於ける關西労働同盟會の大會が『名實相伴ふ全國的總聯合の組織』に努力すべきことを決議したことである。その後五月八日、東京に於て總同盟本部中央委員會有り、前記決議に同意し、之が運動に着手することとなつたのであるが、それと前後して労働組合同盟會の内にも同様の企圖熟し、其後總同盟と労働組合同盟會との間に數次の交渉が重ねらるゝに到つた。

かくして九月十日、神田松本亭に於て兩

派の代表者集り準備委員會が開かれた。同委員會に於ては諸種の準備を整へ、一定の規約草案を作製せんとしたが、理事選出の問題に就て總同盟と組合同盟會との間に意見の相違あり、即ち總同盟は適當なる選舉區を定めて少數の理事を選出することを主張し、組合同盟會は現在の組合より理事一名宛を選出することを主張した。組合同盟會の主張は個々の組合の自主權を尊重し少數者の專制を排除せんとする自由聯合論に立脚するものであるが、之に反し總同盟の主張する處は、理事會は大會決議の執行機關なるが故に、總聯合活用の實際的見地よりして、各組合一名説、即ち現在に於て六十餘名の理事會は、事實に於て屢々開催すること不可能なりといふに存する。而して總同盟の主張の根據は集中的合同論である。故に兩者は既に準備委員會の折衝中よりその採つて立つ意見に相容れざるものがあつたのである。

然し乍ら其後、兩者は計畫の圓滿に進行せんことを望み、前述の難問題なる理事制

につき、松岡案、西尾案(以上總同盟案)及び杉浦案(同盟會所屬機械技工組合案)なる修正案を交々提出し、妥協に盡力したが、遂に一致點を發見するを得ずして、九月三十日の創立大會に臨むこととなつたのである。

九月三十日の大阪天王寺公會堂に於ける會合は、社會運動のあらゆる方面の注目の焦點となつた。各の團體の中樞をなす闘士は、期せずして大阪に集合した。山川均、堺利彦、荒畑寒村、大杉榮、近藤榮藏、和田久太郎氏等のそれぐの一味徒黨は、各傍聽席に陣取り、議事の進行を監視し聲援する等極度の緊張味を示した。

午前九時を以て開會したが、議場の整理のことに就き早くも總同盟と組合同盟會との間に紛擾を起し、既にこの事を以て決裂せんかと危ぶまれた程であつたが、紛擾數時間の後、漸く落着、午後二時過ぎより參加組合五十九、代議員百六名の點呼をなし四時、八木向上會長を議長とし會則草案の審議に入つた。草案第一條の名稱に就ても

小競合があつたが、第二條總聯合組織の原則を示す條項に就て、遂に兩者の意見の衝突を見るに到り、懸案であつた理事制の問題に到達する以前に、遂に決裂の止むを得ざるに到つた。

第二條但書の審議に入るや、信友會の水沼辰夫氏は組合同盟會を代表して

- 一 同一聯業又は同一産業別組合二つ以上加盟せる時は地方的及び全國的産業別聯合を組織するものとす
- 二 同一地方に於て異なる職業的又は産業的組合二つ以上加盟せる時は地方的聯合を組織するものとす

なる修正案を提出し、總同盟は

本聯合は同一産業又は同一職業組合二つ以上加盟せるときは全國的産業別合同を前提とする地方的及び全國的産業別聯合を組織するものとす

なる修正案を提出した(總同盟の修正案は平井美人氏及び横石信一氏より二個の案が提出せられたのであつたが、二者は根本精神に於て同一なりとして、總同盟は横石案を支持するに決した。右は横石案である)かくして討論に入つたが、自由聯合主義

を奉ずる組合同盟會の論旨は、動もすれば極めて露骨に總同盟の專制主義を攻撃し、之に對し總同盟は『合同に反對し自由聯合を主張するは主として資本主義化の充分ならざる印刷工の組合である』が『近世資本主義の支柱である鐵工業、機械工業の如きに到つては事情を異にし』その多年の經驗により集中主義合同論を主張せざるを得ぬと駁論した。兩者の意見は到底妥協點を見出し得ざるものであつた。而して討論を中止して交渉を重ねること三時間、遂に妥協成立せず、七時議事を再會、兩者再び論争を開始したが、階上の傍聽席も漸く熱狂し來り、場内の空氣一層緊張し來つた時、突然臨監の警官により解散を命ぜられたのである。

勞働組合の全國的總聯合の計畫は右の創立大會の決裂を以て、兎に角一時水泡に歸したかの觀がある。而して總同盟は其直後に開かれた第十一年大會に於て、『自由聯合論は勞働階級の戰鬪力を分散せしむるものなるを以て、本總同盟の主張たる戰鬪力集

中の原則と根本的に相容れざる』ものであり『以上の諸組合が本總同盟の主張に合致し來らざる以上斷じて總聯合組織の交渉を爲さざる』旨を決議した。

二 個々の新組合の成立

大正十一年中に成立した労働組合の中主なるものを擧ぐれば、左の如くである。

- 一月 月
 - 日本労働總同盟魚崎支部(兵庫縣魚崎酒樽工)〔日・勞・總〕
 - 日本労働總同盟尻崎第十七支部(尼崎伸銅所職工)〔日・勞・總〕
 - 東洋理髮文化協會(大阪市理髮助手徒弟)
- 二月 月
 - 勞正會(日本製鋼所廣島工場従業員)
 - 誠心團(尼崎市外大阪製麻工場職工)
- 三月 月
 - 和歌山機械工組合(和歌山市中鐵工所職工)〔日・勞・總〕
 - 西部交通労働同盟(大阪市電従業員)
 - 日本労働總同盟堺支部(日本セルロイド會社職工)〔日・勞・總〕
- 四月 月
 - 卓風會(神戸市大洋食店厨夫)
 - 愛國同志會(大阪砲兵工廠一部職工)
 - 女給同盟(大阪市福島朝日橋兩署管内レスト)

労働組合

ラントの女給)〔日・勞・總〕
大阪自動車運轉手組合(大阪府下自動車運轉手)
労働文化協會(久留弘三氏組織)

五月 月

京都印刷工組合(京都市印刷工)〔勞・組・同〕
京都陶磁器製造従業員組合(京都陶磁器工)

六月 月

談笑俱樂部(阪神電鐵現業員)〔日・勞・總〕

八月 月

W・P・労働組合(名古屋小澤鐵工所職工)
通信労働組合(大阪市及連續町村郵便局集配人)〔勞・組・同〕

九月 月

關西調理協調社(大阪市内洋食店厨夫)
自由労働組合(名古屋市自由労働者)〔日・勞・總〕
大阪紡績労働組合(阪神の紡績職工)〔日・勞・總〕

十月 月

協有會(名古屋市電現業員)
大阪印刷俱樂部(大阪府下印刷工)

十一月 月

名古屋鐵工組合(日・勞・總)
革新會(堺市自轉車職工)〔日・勞・總〕
名古屋鑄造工組合

十二月 月

名古屋製材製函工組合(日・勞・總)
文筆労働者組合

以上の外、尙ほ注意すべきは、朝鮮人の間に労働組合の組織が問題になつてゐることである。而してと兎角、左の二つが發會式を擧げた。

關西鮮人労働救會(七月二十四日發會)

鮮人労働者同盟會(十二月一日發會)〔日・勞・總〕

右の外朝鮮に於ても朝鮮人の間に労働組合の漸く生じつゝあることは、前章の「日本労働總同盟」の條下に述べた通りである。

(備考) 以上列記した組合名の下にある()は成立組合員の業態別を示し、〔 〕は組合系統を示すものであつて、〔日・勞・總〕は「日本労働總同盟」の略、〔勞・組・同〕は「労働組合同盟會」の略)

今、左に夫等新成立組合の二三について、其の内容を略記しよう。

1 理髮助手徒弟大會と東

洋理髮文化協會の成立

大阪市

一月二十五日天王寺公會堂に理髮助手徒弟大會を開き決議する處左の如し

一 吾邦全般同業者の地位を高くし共通したる福利を増進せんが爲め全國に統一したる

理髮制を布かんことを要望す（註、試験制度を全国的に統一し一府縣にて採用試験に應じたるものは他府縣にても營業を爲し得る様改善する意なり）

一 吾人が健康保全と修養時間不足を痛感するの餘り茲に營業時間を十三時間制度に改善一齊に實行を要望す
茲に之を決議して大阪府理髮營業組合に速に採擇實行を期せんとす

次に東洋理髮文化協會の設立を諮つた所異議なく可決した。

2 勞正會

日本製鋼所廣島工場の従業員の組織せる勞正會は二月十五日午前十時海田市町旭蒲座に發會式を舉げ、綱領として左の三項を可決した。

- 一 我等は人格の向上技術の進歩生活の改善を圖り常に自治的精神を涵養し以て勞働問題を理想的に解決せんことを期す
- 一 我等は共同一致着實穩健勞資の協同に依る生産能率の増進を圖り以て工業の革新發達に貢獻せんことを期す
- 一 我等は奉仕を念とし親睦を厚くし相愛互助以て文化生活の進展に伴隨せんことを期す

午後演說會を開き、大阪より來れる西尾

柏葉、金正の三氏其他出演。

會長に選任せられたる高橋直治氏は元東京鐵工組合の理事であつた。同工場の職工全數は約千三百で、勞正會々員は創立當時約四百二三十であつた。

3 和歌山機械工組合

三月十五日同市十番町多賀館に於て發會式を舉ぐ。來會者六十名、伊勢本鐵工所員安島高行氏を座長として議事に入り、會則協議、組合七其他役員を選舉した。

組合長 喜田 龜吉 副組長 芝田 元一
會計 森本富二郎

安島氏は嘗つて大阪の藤永田造船所に在り、大阪造船勞働組合の組織及發展に大なる貢獻を爲したんである。大正十年五月藤永田造船所の罷工の際、法に觸れ入監したが、出獄後和歌山に到り、苦心の結果、この組合を組織したのである。四月二日、關西勞働同盟會大會に於て、同同盟會に加盟を承認せられた。

4 談笑俱樂部組織

阪神電車従業者の一部を以て組織せる談

笑俱樂部は、六月二十二日、尼崎市圖書館樓上に於て發會式を舉げ、演說會を開いた。總同盟大阪聯合會、尼崎合同組合、西部交通勞働組合等より應援多數、盛會を極めたが、同夜朗讀せられた宣言には、『我等は社會の改造運動の第一線に起ち虚偽と弊害の多い現在の社會を改革せん』とするものであることを高唱し、『公共的事業に携はり重要な任務を司る者だと謂ふ名目の下に我等の自由を束縛し』來つた會社に對し糾弾的辭句が連ねてあつた。

然るにその發會式に於て會社を攻撃し、且つ大阪鐵工所爭議演說會に出演したといふ廉で依岡勇三郎、椿野理一の兩氏は二十八日突然解職された。茲に於て鬭争的空氣が同組合内に醞釀せらるゝに至つたのであつて、七月に入つて遂にそれが阪神電車爭議といふ一大爭議に曝發したのである。（第三編『勞働爭議』項中参照）

九月に入り十四、十五の兩日に涉り、阪市兩市街、京阪、大軌、南海、阪急、兵電の従業員にあてゝ、關西交通勞働同盟組織

宣傳のビラ一萬枚を配布した。

5 大阪労働組合の成立

紡績工は大阪のみで十萬人を數へるに未だ組合の發生を見ず、各労働組合員が連りに其の組成に盡力したが、遂に其の先鞭と日本労働同盟大阪聯合會が着けることと成つた。即ち合同紡績、天滿紡織、大阪毛織、天滿織物、東洋紡績の紡績工六百五十名を糾合して、大阪最初の紡織労働組合を組織することとなり、九月二十二日午後七時より大阪市民館に於て發會式を舉げた式後、賀川豊彦、松澤兼人、西尾末廣諸氏の演說會を開いた。

役員は左の如し、

組合長 松澤兼人氏
書記長 賀川豊彦氏

6 鮮人労働者同盟會の創立

該創立大會は十二月一日午前十一時半より、大阪市西區九條市民殿で開かれた。出席者は鮮人の外に野武士組加はつて約三百名、警察の嚴戒裡に開會、左の綱領を發表

労働組合

し、

人類共存の基礎に立脚し團結の力によつて自由、平等及び生存權の確立を期す

會則の審議に入り、執行機關の組織に關して、東京より來れる者と、在阪鮮人との間に豫め諒解を缺きし爲め、激論となり、果ては滿場總立となつて混亂に陥つた。茲に於て九條署長は解散を命じた。かくて檢束者數名を生ずるに至つた。

然るに其後東京側との了解成り、東京側は大阪を引揚げ、大阪側のみが茲に新しき團體と組織せんと計畫を進め、關西朝鮮人協會、勞進會其他の在阪十數個の鮮人團體を一丸としたものを終らんとしたが、遂に京阪神の純筋肉鮮人労働者を糾合し、十二月三日午後四時より西區鶴町一丁目に會して綱領規約等を可決し、組織と委員制度とを、宋章福氏外九名を執行委員に選舉し從來の在阪鮮人團體とは全く關係を斷つて、日本労働同盟と協同戰線を布くこととなつた。其の綱領に曰く

綱領

(一) 我等は我等の團結の威力によつて階級

闘争の勝利を獲得し以て生存權の確定を期す

(二) 我等は我等の膏血搾取する資本主義制度を打破し生産と労働とを本位とする新社會の建設を期す

第三 労働組合對策

労働組合に對する對策としては、特に注目すべき程のもの認め得なかつた。唯だ野黨たる憲政會及び國民黨が第四十五議會に、夫々の労働組合法案を提出したことが、僅かに注意を引くまでである。

憲政會の法案は已に本年鑑十年版に載せあるが故に、茲には國民黨提出の同法案を示さう。

右兩法案とも委員附託となつたのみで葬り去られたことは言ふまでもない。

國民黨提出『労働組合法案』

第一條 本法ニ於テ労働組合ト稱スルハ労働條件ノ維持又ハ改善組合員相互ノ間ニ於ケル共同利益ノ保護増進並共濟扶助ノ目的ヲ以テ設立シタル労働者十八人以上ノ團體ヲ謂フ

第二條 労働者ニ非サル者ト雖組合ノ總會ニ於テ組合員三分ノ二以上ノ同意アルトキハ組合

員タルコトヲ得

第三條 労働組合ハ法人トス

第四條 労働組合ノ代表者ハ組合設立ノ日ヨリ

二週間内ニ組合規約ヲ主タル事務所々在地ノ
地方長官ニ届出ルコトヲ要ス組合規約ニ變更
アリタルトキ亦同シ

第五條 労働組合ノ組合規約ニハ左ノ事項ヲ記
載スルコトヲ要ス

一、名稱

二、目的

三、主タル事務所

四、組合員ノ資格ニ關スル規定

五、組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

六、組合ノ總會其他會議ニ關スル規定

七、組合ノ代表者並其ノ他役員ニ關スル規定

八、組合費及加入金ノ徴收方法並會計ニ關ス
ル規定

九、組合ノ目的タル事業並組合員共濟扶助ニ
關スル規定

十、組合規約ノ變更ニ關スル規定

第六條 労働組合ノ登記スヘキ事項左ノ如シ

一、第五條第一號乃至第三號

二、設立ノ年月日

三、理事ノ住所氏名及生年月日

前項ノ事項中變更ヲ生シタルトキハ一週間内
ニ變更ノ登記ヲナスコトヲ要ス登記ヲナシタ
ル後ニアラサレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得
ス

第七條 労働組合ハ協同ノ目的ヲ達スル爲他ノ
労働組合ト聯合組合ヲ組織スルコトヲ得聯合

組合ニ對シテハ本法ノ規定ヲ準用ス

第八條 民法第四十四條第四十五條第四十八條

第五十條第五十二條乃至第七十條第七十二條

乃至第八十四條ノ規定ハ之ヲ労働組合ニ準用
ス但シ總會ニ付テハ組合規約ノ定ムル所ニ依
リ組合員ヨリ選舉シタル代議機關ヲ以テ之ヲ
代フルコトヲ得

此場合ニ於テハ總會ニ關スル規定ハ之ヲ代議
機關ニ準用ス

第九條 労働組合ニ對シテハ所得稅營業稅及登
記料ヲ免除ス

第十條 労働組合ハ合併ヲナスコトヲ得此ノ場
合ハ民法第六十九條ノ規定ヲ準用ス

労働組合力合併ヲナシタルトキハ二週間内ニ
於テ合併後存續スル組合ハ變更ノ登記ヲナシ
又合併ニ依リテ消滅シタル組合ハ解散ノ登記
ヲナシ合併ニヨリテ設立セラレタル組合ハ設
立ノ登記ヲナスコトヲ要ス

合併後存續スル組合又ハ合併ニヨリテ設立セ
ラレタル組合ハ合併ニ依リテ消滅シタル組合
ノ權利義務ヲ承繼ス

第十一條 雇主ハ労働者が労働組合ノ組合員タ
ルノ故ヲ以テ之ヲ解雇シ又ハ組合ニ加入セス
若クハ組合ヨリ脱退スルコトヲ雇傭條件トナ
スコトヲ得ス

第十二條 労働組合又ハ其ノ組合員ハ労働條件
ニ關シテ組合又ハ組合員ト締結シタル契約ニ
付雇主ニ對シ損害賠償又ハ違約金若クハ保證
ノ責務ヲ負ハサルモノトス

第十三條 労働組合ハ毎年一回組合ノ事業並財

産ノ狀況ニ關シテ地方長官ニ報告ヲ爲シ併セテ
之ヲ公告スヘシ

第十四條 労働組合ノ選舉又ハ會議ニシテ法令
又ハ組合規約ニ違反スルトキハ主務大臣又ハ
地方長官ハ其ノ取消ヲ命スルコトヲ得

第十五條 第四條ノ場合ニ於テ地方長官ハ組合
規約ヲ法令ニ違反スト認ムルトキハ其變更ヲ
命スルコトヲ得

第十六條 前二條ノ地方長官ノ處分ニ對シ不服
アルトキハ主務大臣ニ訴願シ其採決ニ不服アル
ルトキ及主務大臣ノ處分ニ不服アルトキハ行
政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ訴願ノ提起
ハ處分決定ノ日ヨリ十四日以内ニ行政訴訟ノ提
起ハ其ノ採決又ハ處分決定ノ日ヨリ三十日以内
ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十七條 労働組合解放シタルトキハ他ニ特別
ノ規定アル場合ノ外第四條ノ手續ニ依リ地方
長官ニ届出ツルコトヲ要ス

第十八條 第四條及第十七條ノ届出若ハ第十三
條ノ手續ヲ爲サス又ハ第十四條ノ命令ニ違反
シタルトキハ組合ノ代表者其ノ他ノ役員ヲ各
五十圓以下ノ過料ニ處ス其ノ届出又ハ手續ヲ
爲スモ實チ以テセサルトキ亦同シ

第十九條 第十一條ニ違反シタル者ハ五百圓以
下ノ過料ニ處ス

第二十條 労働組合ノ役員其ノ職務ニ關シテ賄賂
ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若ハ約束シタルトキ
ハ三年以下ノ懲役ニ處ス賄賂ノ提供及交付又
ハ約束ヲ爲シタル者亦同シ

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收

ス若其ノ全部又ハ一部ヲ没收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ヲ追徴ス

第二十一條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本法ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ニ設立シタル労働組合ハ本法施行後一週間内ニ第四條ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

労働組合ノ登記ニ付テハ産業組合ノ登記ニ付テハ産業組合法附則ヲ準用ス